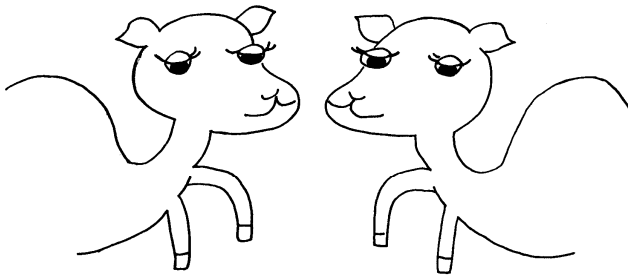
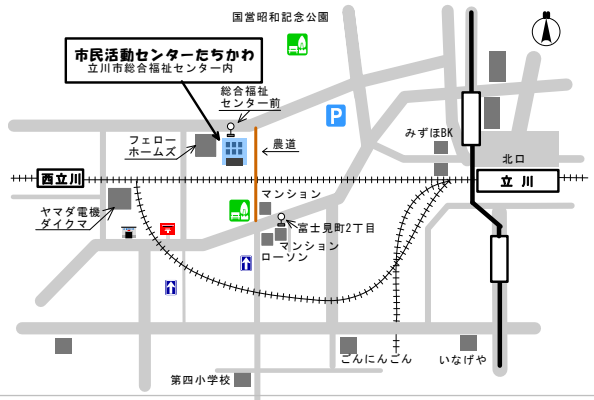
平成26（2014）年度

市民活動センターたちかわ
事業報告



市民社会を拓（ひら）きたい



◆問合せ◆

社会福祉法人 立川市社会福祉協議会

市民活動センターたちかわ

〒190-0013　立川市富士見町 2-36-47

TEL:042-529-8323　FAX:042-548-1724

E-mail　aiaivc@whi.m-net.ne.jp

http://www.tachikawa-shakyo.jp/skct/

(月)-(金) 8:30-19:00

(土)　8:30-17:00

※(日)・祝日はお休みです

◆行き方◆　交通アクセス

（徒歩で行く） JR 立川駅北口より徒歩 15 分　または　JR 西立川駅より徒歩 8 分

（バスで行く） 立川駅北口(10)(11)バス停より乗車 「富士見町 2 丁目」下車～農道を通って 徒歩 3 分

（バスその2） くるりんバス　みなみくるりん 「総合福祉センター前」下車 徒歩 0 分

目　　次

■はじめに ---------- 3

■1 章　市民活動センターたちかわとは

Ⅰ.市民活動センターたちかわの使命と基本方針 ---------- 4
Ⅱ.立川のまちの特性 ---------- 4
Ⅲ.市民活動センターたちかわの描く「立川市民像」 ---------- 5
Ⅳ.市民活動センターたちかわの主なサービス ---------- 5
Ⅴ.市民活動センターたちかわの特色 ---------- 7

■2 章　平成 26 年度の活動

Ⅰ.1 年間の相談集計結果と分析 ---------- 8
Ⅱ.平成 26 年度　地域福祉コーディネーター活動報告 ---------- 20
Ⅲ.センター運営の活動の柱 ---------- 46
1.市民参画の運営委員会によるセンター運営 ---------- 46
2.協働の推進 ---------- 48
3.地域づくり ---------- 55
4.市民活動支援 ---------- 59
5.その他 ---------- 68
Ⅳ.平成 26 年度の市民活動センター事業を振り返って ---------- 70
Ⅴ.平成 27 年度に向けて ---------- 73
Ⅵ.平成 26 年度収支決算(概略) ---------- 75

■3 章　資料 ---------- 76

Ⅰ.平成 26 年度登録団体 ---------- 76
Ⅱ.平成 26 年度登録サロン ---------- 81

はじめに

市民活動センターたちかわが誕生したわけは

社会制度の規制緩和や格差社会、少子高齢化といった人口構造や家族機能の変容など、社会環境が激しく変化している。

雇用環境の悪化やひきこもりなどの新たな社会問題が表出し、行政からの一律的サービスだけでは解決できない多様な生活課題も浮き彫りとなっている。

地球環境の変化による生命の危機が現実味を帯び、巨大災害も頻発している。

市民・行政・企業がそれぞれの力を引き出しあいながら、持続可能な社会を創っていかなければ、未来は構築できないことに私たち市民は気付きはじめている。

ひとりひとりの市民がどう社会に参画していくかが重要な時代である。

一方、阪神・淡路大震災を契機としたボランティア活動への関心の高まりや、NPO 法（特定非営利活動促進法）の制定、さまざまな市民活動団体の登場など、ボランティア・市民活動のあり様も多様化している。

こうしたことを背景に、センターに寄せられる相談や情報も実に幅広く多様となってきている。

期待される役割や事業、サービスのあり方も変化してきている。

多様性に応えられ、社会課題の解決に貢献し、たくさんの人と活動をつなぐ、市民にとって真に必要とされるセンターであるために、市民活動センターたちかわ（以下センターという）は、平成 15 年 4 月に「立川ボランティアセンター」からその機能拡大し、「市民活動センターたちかわ」として再スタートするに至った。

１章　市民活動センターたちかわとは

Ⅰ．市民活動センターたちかわの使命と基本方針

【使命】

市民社会を拓きたい

【基本方針】

私たちは「市民」を、次のように思い描いています

1.自分で考えて行動する
2.社会のために行動する
3.地球のために行動する

私たちの考える市民社会とは、多様な人々が連携し、社会の課題解決に向けて取り組み、誰もが希望を持って生活できる社会である、と考えています。

Ⅱ．立川のまちの特性

○人口：立川市では、平成 27 年度から平成 36 年度までの 10 年間の計画である立川市第 4 次長期総合計画が策定され、その中で将来人口推計を表している。これによると、平成 27(2015)年１月１日現在の立川市の総人口は、179,090 人。平成 25(2013)年１月１日現在の住民基本台帳登録人口(外国人を含む。)を基準人口とし、コーホート要因法を用いて将来人口の推計を行っている。目標年次である平成 36(2024)年度(平成 37 年１月１日)の総人口は、174,592 人となり、4,498 人減少する見通しとなっている。

● 65 歳以上の人口は、平成 27(2015)年１月１日現在、41,142 人で、総人口に対して占める割合は約 23.0%となっている。今後もその人数と割合は増加し続け、平成 36(2024)年度(平成 37 年１月１日)には、45,375 人、約 26.0%になるという予測結果となった。15 歳から 64 歳までの人口は、平成 27(2015)年１月１日現在、115,525 人で、総人口に対して占める割合は約 64.5%となっている。今後もその人数と割合は減少し続け、平成 36(2024)年度(平成 37 年１月１日)には、109,517 人、約 62.7%になるという予測結果となった。

● 平成 37(2025)年度以降についても、引き続き総人口が減少するとともに、少子化、高齢化がさらに進展するものと予測される。※1

○面積：24.36 平方キロメートル。※2

○地域的特色：東京都の中央西よりにあって、都心から 40㎞圏、東京駅から電車で 50 分程度の位置にあり、八つの市に隣接している。地形的には、市域南端の日野市との境に多摩川が流れ広々とした河川敷を構成し、河岸段丘崖に緑の多い傾斜地があるほかは、概ね平坦な地形である。市全域が都市計画区域に指定されている。

また市内には JR 中央線など東西方向に 5 路線の鉄道が通るほか、多摩都市モノレールの開通により南北方向の交通も確保され、立川駅はあらゆる方向からのアクセスが容易な多摩地域の交通の中心となっている。その結果、立川駅を中心として商業・飲食施設や事務所施設などが集積、その周辺に密度の高い市街地を形成する一方、国営公園や市北部地域の農地・屋敷林・玉川上水など、緑とオープンスペースも比較的多く残されており、近代的な町並みと郊外的なうるおいが共存する、多様な面のある地域特性を持っている。※4

※1, 3, 3 資料出展：立川市の『第 4 次長期総合計画』（平成 27 年 4 月）より

※2 立川市の面積：平成 27 年３月６日付、国土交通省国土地理院より公表された「全国都道府県市町村別面積」により、本市の面積は 24.38 km2 から 24.36km2 になった。

Ⅲ. 市民活動センターたちかわの描く「立川市民像」

先に示した「第 4 次長期総合計画」の策定あたり、市では『市民意向調査報告書』（平成 25 年 3 月）を実施している。これによれば、立川市を「住みよい」または「どちらかというと住みよい」と答えた人の合計が全体の 85.4%を占めており、さらに、今後の居住意向について回答の上位「当分の間、住んでいたい」と「永住したい」の両者を合わせるとほぼ 90%であり、過去の調査と比べて「永住したい」が増加し、市民の定住意向は強まっていることが窺える。※5

また、同調査の中で地域コミュニティの推進について「参加している地域活動や催し」を尋ねた項目をみると、「自治会活動」（27.9%）、「趣味・娯楽などのグループ活動」（11.3%）、「スポーツなどのクラブ活動」（10.4%）、「ＰＴＡ活動」（7.6%）、「地域の清掃・美化活動」（6.8%）が上位５項目であるものの、「参加していない」が 50.8%と最も多い結果となっている。※5

※5 「立川市第４次長期総合計画」策定に向けて～平成 24 年 11～12 月に市民計 2000 人対象実施

定住意向の比率は高いが、一方で地域活動への参加が約半数にとどまっている、このような特色を持つ立川市民に対して、市民活動センターたちかわとしては今後に向けてどのような「立川市民像」を目指して事業を行っていくべきか。

私たちは、市民がお互いにつながっているという意識を拓いていくことを大切にしたいと考えた。ここでいう「つながり」とは、人々が自由な意思に基づき、協力し、助けあい、出会いを楽しみながら、自分たち自身で住みよいまち・社会を形成していくために必要なものである。

人々がつながりを形成している場としての、会社、学校、サークル、市民活動グループ・団体、地域自治会、PTA など、これまであるつながりに加え、新たなつながりをつくっていくことの出来る姿が、市民活動センターたちかわの描く市民像である。

Ⅳ. 市民活動センターたちかわの主なサービス

☆総合相談機能を持って、様々な市民活動の支援、サービスを行っています。

■『協働の推進』・・・・・（協働支援センターの機能）

○協働の仕組みづくり
・行政とNPOや企業とをつなぐコーディネート
○市民活動団体との協働事業や地域イベント開催を支援
・「ふれあいミュージックフェスティバル」
・「たちかわ楽市」
・各種企画委員会やプログラムへのスタッフ派遣等
○企業のCSR(社会的責任)活動への支援
・社員のボランティア活動コーディネート
・新任研修への協力

■『地域づくり』・・・・・(地域活動支援センターの機能)

○地域福祉コーディネーター
・市内3地区(栄町・若葉町地区/上砂町・一番町・西砂町地区/錦町・羽衣町地区)に専任で配属し、地域課題の解決を支援
○学校を核とした市民学習支援
・市内の小中学校・高校、各種学校の授業プログラムを地域の住民や機関、市民活動団体とともに実施
・教育機関や市民活動団体の連携を支援
○グッドネイバー運動推進団体の支援
・「よき隣人」をキーワードに、小地域単位での住民主体のまちづくりを進める、市内４ヵ所(柴崎・栄・若葉・西砂一番)の団体の支援
○地域懇談会の開催
・地域懇談会では、たとえば「防災」をテーマにワークショップやまち歩きなどのイベントを開催しながら、住民同士の顔の見える関係づくりを進める。
○「支えあいサロン」活動の支援

■『市民活動支援』・・・・・(ボランティアセンター・NPO支援センターの機能)

○日々の市民活動に関する相談
・「ボランティアしたい」「サポートしてくれる市民活動団体を探している」「NPO法人を立ち上げるにはどうしたらいいのか」「立川でイベントをするので広報周知してほしい」などの相談対応
○おもしろボランティア大学の開催
・ボランティア活動を始めるきっかけとする講座の開催
○市民活動体験プログラム
・夏!体験ボランティア　　・楽市案内人ボランティア
○情報の受発信
・ホームページの運営と管理　各団体の活動情報の発信
・市民活動情報コーナーの設置
　紙媒体による情報収集、インターネットでの情報検索ができるコーナーの運営

・情報誌『市民活動センター★たちかわ通信』の発行
・『市民活動センター登録団体紹介BOOK』及び『ボランティア紹介冊子』の発行
・市民活動センターたちかわ登録団体や情報希望者との連携
〇NPO法人設立ガイダンス
・NPO法の解説や法人化の意義、設立に向けた手順や事務についてのガイダンスを定例開催
〇市民活動団体マネジメント講座の開催
〇活動資金の助成
・立川市社会福祉協議会市民活動助成　　市民活動団体の立ち上げまたは活動資金を支援
・各種民間団体の助成情報の周知
〇活動スペースの貸出し
〇機材の貸出し
・印刷機、拡大印刷機、コピー機、紙折り機、館内情報検索用パソコン、図書等各種備品の貸出し
・他の施設、団体と共有できる物品の貸出し
　プロジェクター、スクリーン、マイク、アンプ、ＤＶＤプレイヤー
・コミュニティ備品の貸し出し
　和太鼓、綿菓子機、ポップコーン機、テント
〇ボランティア保険および行事保険の相談や加入受付

Ⅴ. 市民活動センターたちかわの特色

「市民活動センターたちかわ」は市民で構成される運営委員と職員を交えた20余名の合議型運営方式で運営している。

ボランティアや市民活動団体を支援すること(中間支援)を通して、社会の様々な課題解決に貢献することを目指し、日々、市民や団体を『つなぎ』、『育み』、『拓く』役割を担っている。

また、私達のセンターの特色といえるのは、いろいろな所から寄せられる多様な相談を大事にしていることである。漠然とした行き場のない相談の中に、新たな社会の課題が見え隠れし、市民発の活動として取り組む意義のある案件が多く含まれているからである。

市民や市民活動団体から聞こえてくる多くの声から市民社会の見えないNeedsやwantsを探り『協働の推進』、『地域づくり』、『市民活動支援』の3つのキーワードからなる事業を推進していく。地域や市民に根ざしたセンターを目指して、相手の声を直接に聞き、コミュニケーションを取りながら適切な役割を担うという手法を積極的に取り入れている。

設立から11年が経過したが、センターは現状に満足することなく、「これからの公共」について

発信力を持つ大阪ボランティア協会やせんだい・みやぎNPOセンターなど、各地の先進事例を学びながら、多くの市民から愛される市民活動センターとなるよう取り組んでいく。※1

※1大阪ボランティア協会　http://www.osakavol.org/

せんだい・みやぎNPOセンター http://www.minmin.org/

2章　平成26年度の活動

Ⅰ．1年間の相談集計結果と特徴

ボランティア活動やNPO、地域活動に関する相談を市民活動センター窓口や、立川市社会福祉協議会あいあいステーション窓口、地域で事業を実施する中で受け付けた。相談内容に応じて、情報提供、課題整理のお手伝い、人や機関をつなぐコーディネート、生活課題解決のための個別相談などにつなげた。

相談内容も多岐に渡るため、個々の相談に応じて、その場面で必要な役割と支援を見極めることと、相談者である市民自身が持つ解決力を引き出すことを、センターの相談受付においては大切にしている。また、寄せられる相談から、その時々の社会課題、地域課題、市民活動に関する現状が浮かび上がってくる。これらの相談内容は、今後のセンター事業を方向付ける基盤となっている。寄せられる相談等の大きな特徴としては、以下の4点があげられる。

①「本当に役立つ情報」が求められている

センターならではの入手可能な「具体的な人となりや活動が分かる情報」や「この辺りの地域で私たちが使える社会資源は何か」といった、きめ細やかな情報が求められている。情報を一面的に捉えるのではなく、新たな可能性を引き出す「役立つ情報」へと捉えていきたい。

②多様なつながりをつくる相談が増加している

障害者施設と企業の連携､企業の社会貢献や創業を支援するためのネットワークづくりなど、団体の活動分野を越えた多様なつながりをつくるための支援が増えている。立川というまちに密着したセンターなので、多様な連携によって生まれる市民への波及効果を意識しながら、連携していく姿勢を大事にしたい。

③地域に密着した活動が掘り起こす課題に、センターとの連携により解決していく

地域福祉コーディネーターが配置され、地域における交流の場づくりや団体間のネットワークづくり、調査活動、普及啓発活動を行なっている。地域福祉コーディネーターの配置地区では、より地域に密着した活動が展開できるようになり、相談を待つだけではなく、課題の掘り起こしや早期発見ができるようになった｡平成25年度より3地区目への配置が実施されたことで、地域福祉コーディネーターが掘り起こした課題をセンターと連携して解決してゆく様相が相談の上でも明確になってきている。コーディネーター増配置により、より地域に密着した相談の比率が高まり、地域に寄り添った相談機関としての広がりが重要となっていく。

④専門機関との新たな連携が必要な相談が増加している

介護保険のケアマネジメントに続くように障害を持つ方への相談支援ケアマネジメントが整備されつつある。また精神医療福祉の分野でも入院治療中心から地域生活中心へと基本的政策

の転換が図られてきており、閉じこもりの方や、精神的ダメージを強く受けている方等からの相談など、援助における専門性を必要とされる場面も増えてきている。センターとしての対応の限界点を見極めると同時に、新たな専門機関との連携が必須な状況である。

(1)市民活動センターたちかわに寄せられた相談

○相談件数【総合相談件数】(平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日)　2,190 件

【相談件数 (A):センターの窓口で受けた相談の件数】　983 件

(内訳)

・市民活動に関する相談(夏！体験ボランティア 101 件を含む)　930 件

・市民活動以外の相談　32 件

・助成事業申請相談　21 件

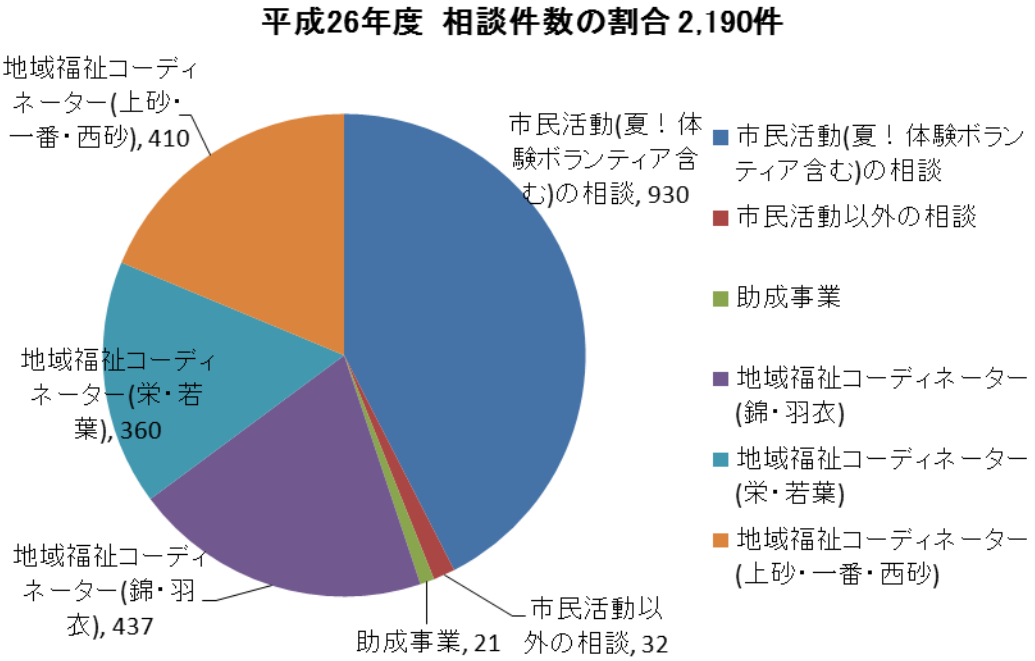
【相談件数 (B):地域福祉コーディネーターが相談を受けた件数】　1,207 件

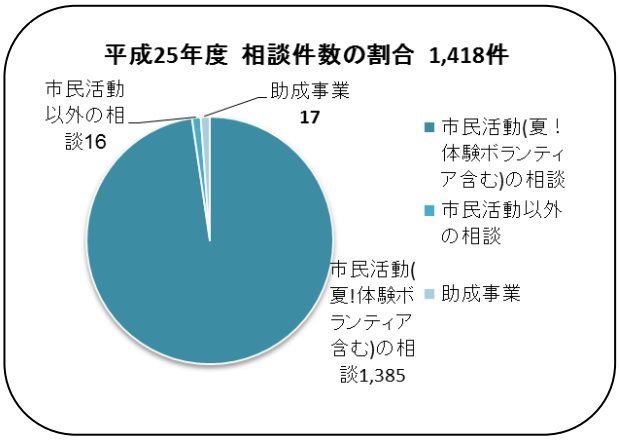
(内訳)

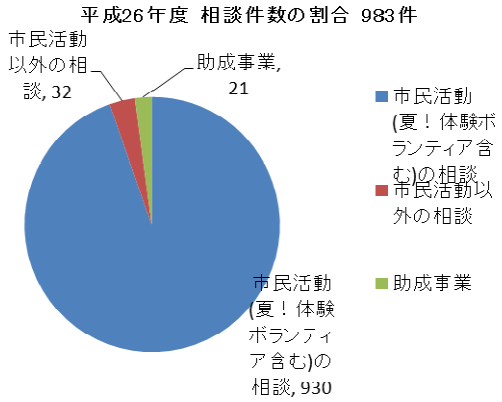
・地域福祉コーディネーターへの相談(錦町・羽衣町)　437 件

・地域福祉コーディネーターへの相談(栄町・若葉町)　360 件

・地域福祉コーディネーターへの相談(上砂町・一番町・西砂町)　410 件



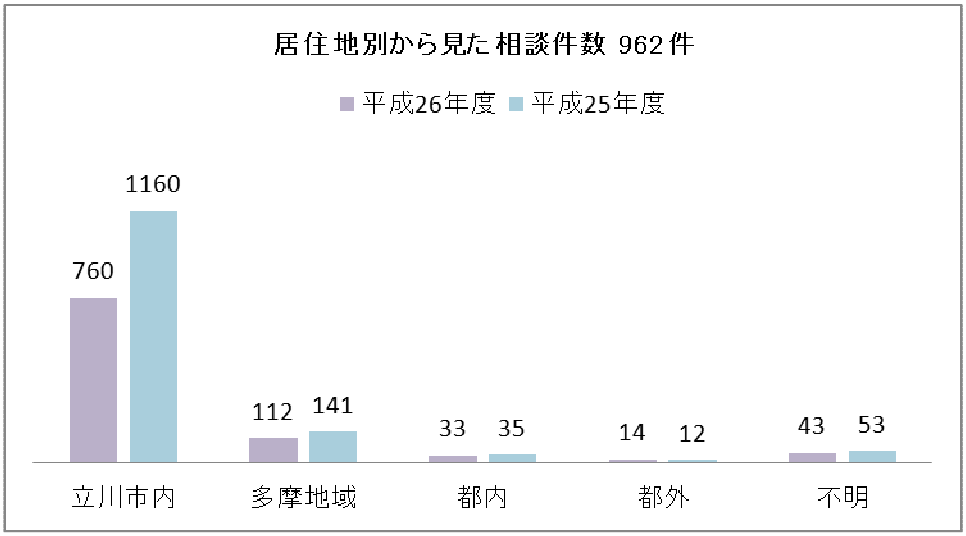




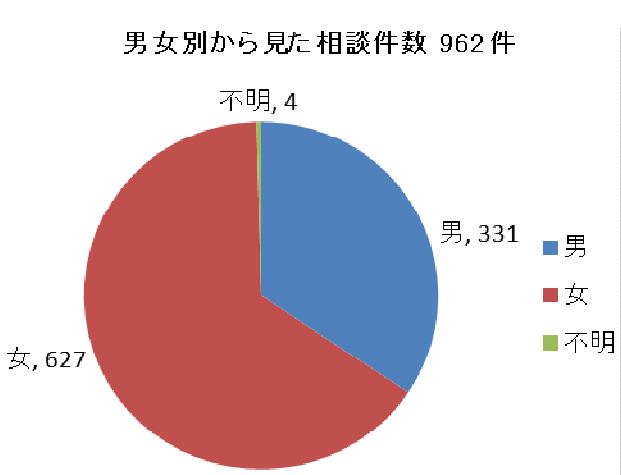
※上記は『センターの窓口で受けた相談（前ページにおける相談件数（A））』の内訳を表わすグラフ。
※以降の集計は市民活動に関する相談及び市民活動以外の相談（総合相談件数より「地域福祉コーディネーターへの相談（相談件数（B））及び「助成事業相談」を除く）件数 962 件から集計する。
※地域福祉コーディネーターへの相談については、20 ページからの「Ⅱ．平成 26 年度地域福祉コーディネーター活動報告」において詳述する。

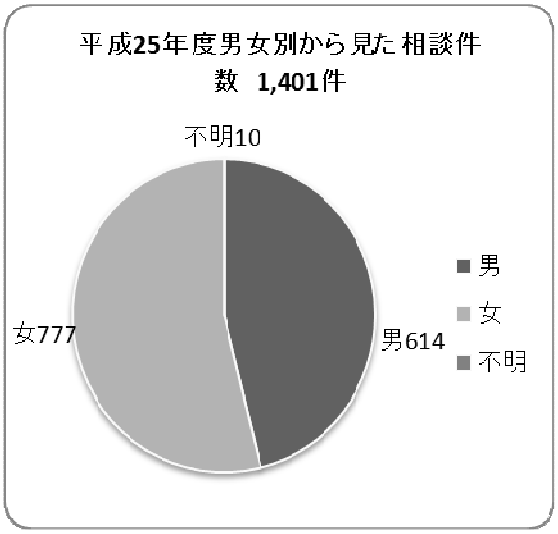
■相談者の様子

相談者の居住地は、センターの特性上、立川市内が最も多いが、市外からの相談も多く寄せられている。地域福祉コーディネーターの増配置により、センタースタッフにも、より地域に密着した相談が寄せられている。

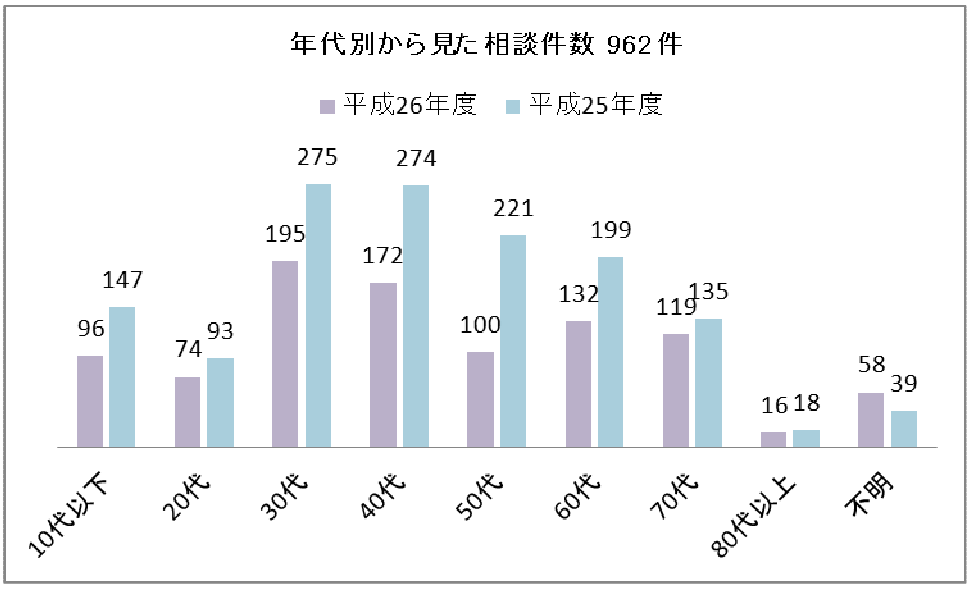


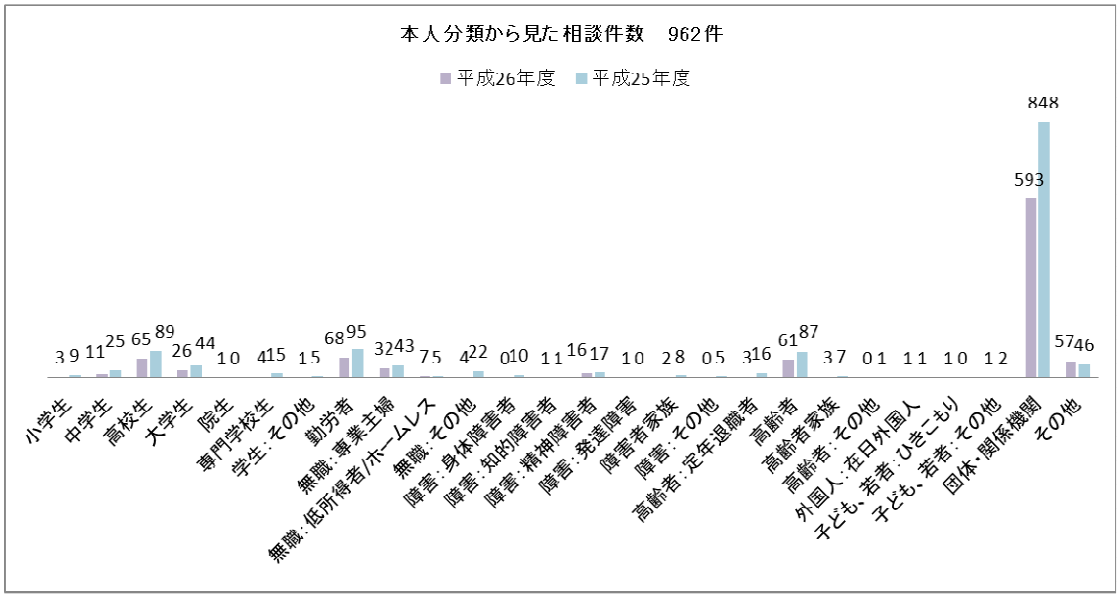
男女比は女性からの相談が多く、前年度よりさらに傾向が強まっている。





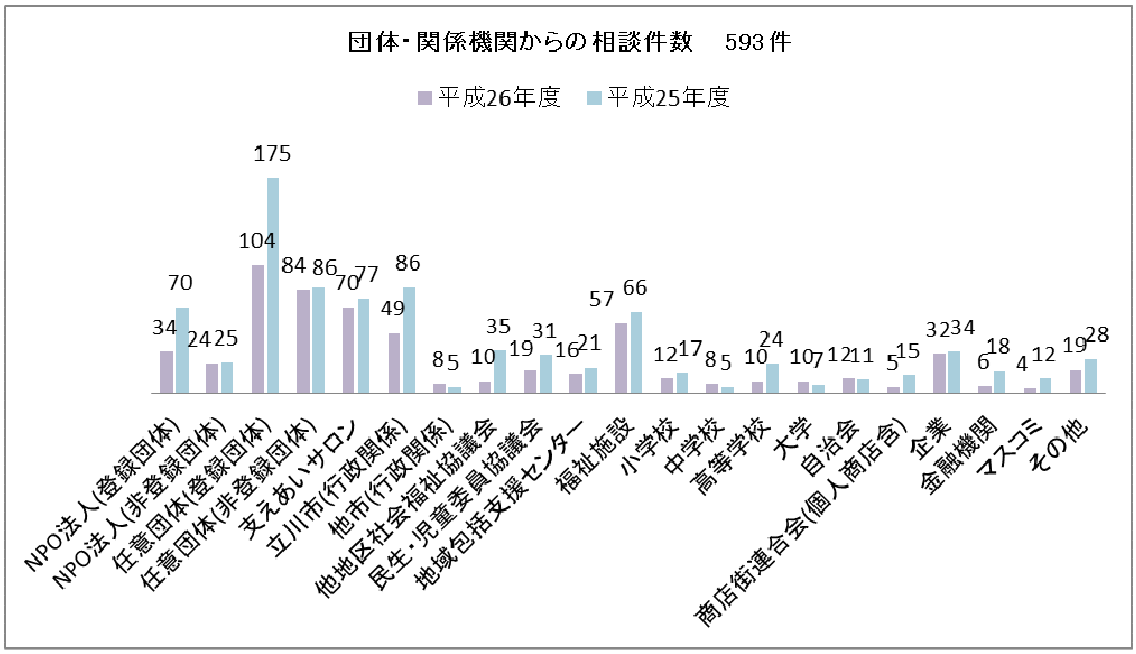
年代別の割合は昨年度と同様に、30～40 歳代の方からの相談の割合が最も多い。





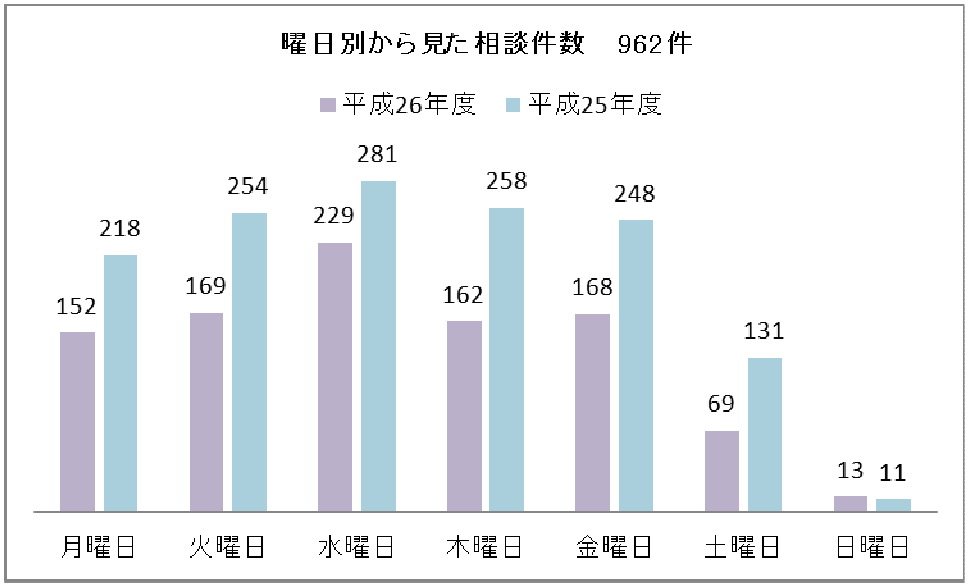
本人分類で見ると、高校生、勤労者、高齢者、その他からの相談が目立つが、「団体」「関係機関」からの相談件数は突出している。平成 26 年度から高齢者や障害者等の分類を細分化してデータをとっているため、数字が分散しているように見える。

また、団体・関係機関の分類を行い、任意の登録団体、非登録団体、支え合いサロンからの相談が多いことから、市民活動センターは、何かあれば団体が相談できる窓口として機能してきていると推察される。

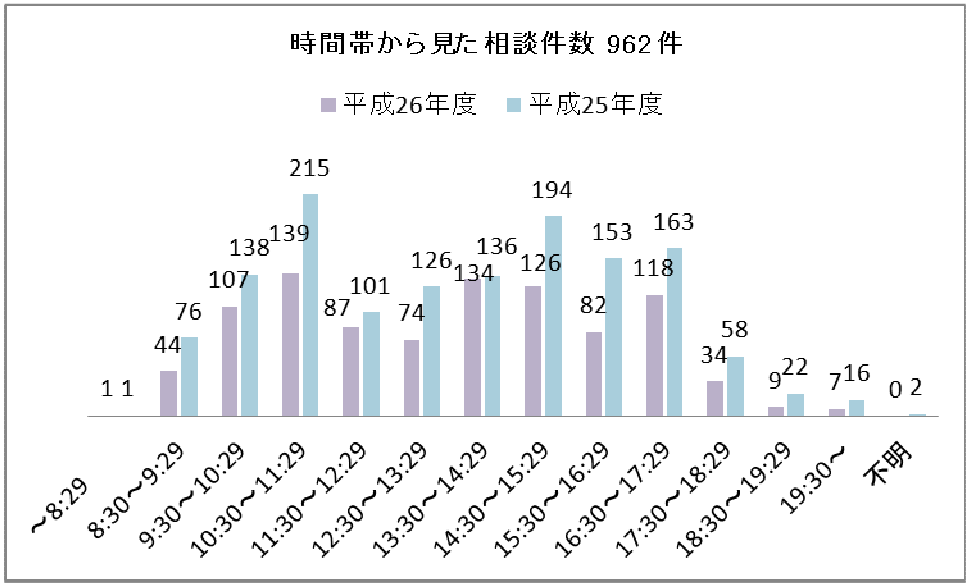


■相談が寄せられる日時の傾向

センター開所日のうち、土曜日の相談件数は昨年度同様に少ない。平日の週半ば、水曜日の相談が傾向として多い。日曜日は、地域イベントなどの機会に受けた相談がほとんどである。



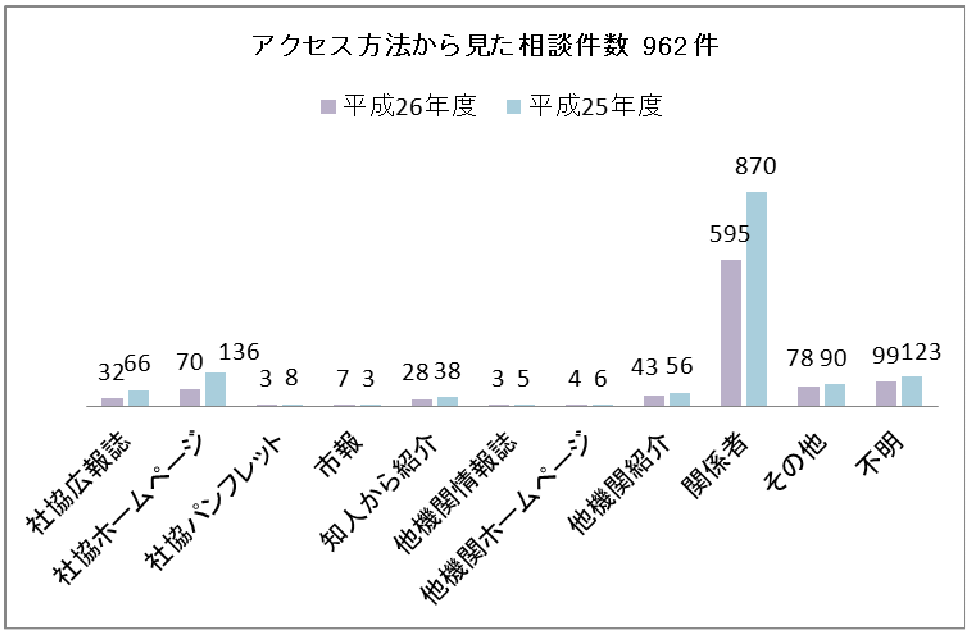
相談が寄せられる時間帯については、10:30～、13：30～の時間帯が多い。16:30～の相談件数もやはり多くなっている。



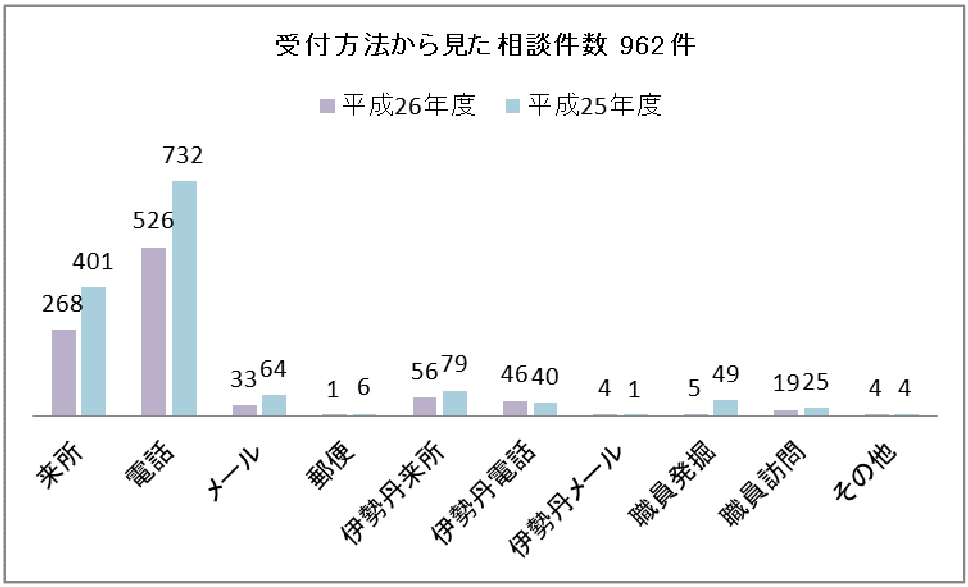
■センターに連絡を入れるきっかけとアクセス方法

ホームページからのアクセスが多い。また、関係者からの相談も昨年度同様に群を抜いており、相談者の多くはリピーターであることが伺える。

なお、「関係者」とは、一度でもセンターを利用したことのある方を含めている。

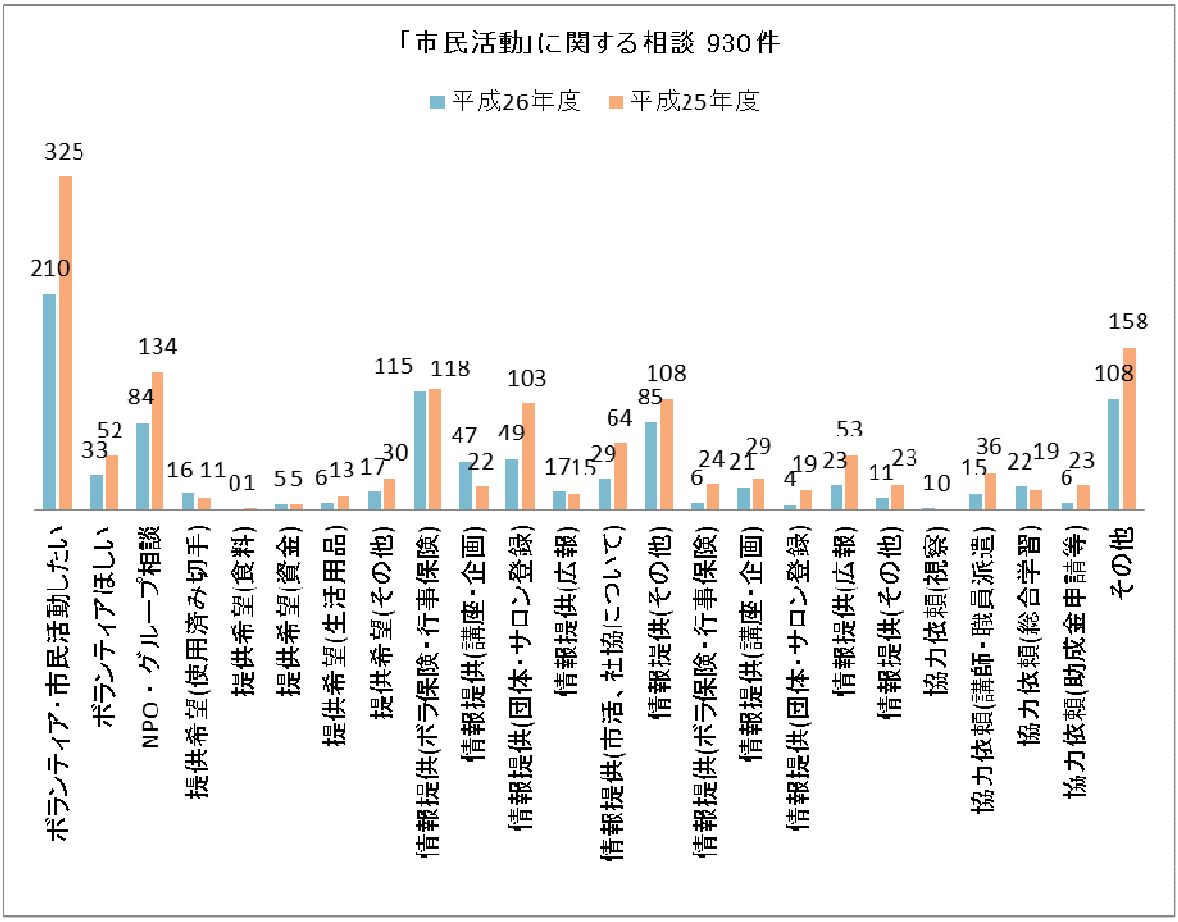


相談の受付方法については、全体比で見ると電話の割合が最も多い。また、地域に出る機会が増えており、職員が自ら課題を発見し相談につなげる件数も増えている。伊勢丹事務所では年間15%相談を受付してきていたが、2月16日をもって相談窓口は役目を終え、閉鎖されることとなった。市民サービスの低下とならないよう、センターの相談窓口は、より一層の充実が求められる。



■市民活動に関する相談内容

全体的な相談件数は昨年度(1,385 件)と比べて約 32%減少している。今年度は、市民活動センターから市民・団体への「情報提供」について、「ボランティア保険・行事保険」「団体・サロン登録」というように内容を絞って、相談内容を見てきたが、「ボランティア・市民活動がほしい」「市民活動センターからの情報提供」という相談が多いことがうかがえる。



「ボランティアしたい」「ボランティアほしい」という相談には、以下のような相談が寄せられている。最初から希望するボランティア活動のイメージを持っていない相談者も多く、その都度、相談者のニーズに合うような活動やボランティアを一緒に探している。最近は、ボランティアから職員への就職手段の一つとして相談に来るケースや、障害のある方が就労する前にボランティアとして実習的に職場を体験したいといった相談も受付した。

活動分野	ボランティアしたい	ボランティアほしい
保健・医療・福祉	・高齢者施設での活動補助 ・施設でのレクリエーション （合唱、囲碁等） ・障害者団体の活動支援 ・身体障害者デイサービスでの活動補助 ・福祉作業所での活動補助 ・ ・手芸、洋裁指導 ・手話 ・障害児学童保育所の手伝い ・使用済み切手の整理 ・労務相談 ・健康体操講師	・高齢者施設での楽器演奏 ・高齢者宅の囲碁相手 ・レクリエーション （音楽演奏、陶芸、囲碁等） ・ラジオ体操講師 ・福祉施設利用者の犬の散歩付き添い ・障害者団体イベント運営の手伝い ・障害者宅の電球交換、エアコン清掃 ・児童館行事の手伝い ・見守り ・傾聴 ・編み物指導 ・書道講師 ・図書の借受 ・猫預かり
社会教育	・夏の体験ボランティア ・高齢者施設への活動支援 ・学習支援 ・初詣の同行 ・数学指導 ・マナー講習 ・英語指導	・音楽イベントの運営 ・学習指導 ・放課後子ども教室の手伝い
環境保全	・夏の体験ボランティア・清掃活動（ゴミ拾い）	
まちづくり	・夏の体験ボランティア ・保育園での活動支援 ・障害児学童保育所の手伝い ・レクリエーション （合唱） ・イベント活動支援 ・イベントの際のケータリング ・パソコン指導 ・編み物指導 ・朗読 ・動物とのふれあい	・市民活動団体運営の手伝い

	・音楽療法 ・孤立防止見守り ・散歩同行 ・使用済み切手整理 ・企業の社会貢献 ・企業の新人研修	
文化・芸術・スポーツ	・音楽イベントの企画運営 ・レクリエーション （ミュージカル等） ・一輪車運転指導 ・作法指導 ・体操指導 ・書道指導	
子ども	・夏の体験ボランティア ・高齢者施設での活動 ・障害児への運動補助 ・保育園での活動補助 ・障害児学童保育所の手伝い ・放課後教室の手伝い ・おもちゃ図書館の手伝い ・出張児童館 ・発達障害児への訓練の手伝い ・海外に関わる活動 ・農業 PR 活動 ・育児・子育て支援 ・楽市案内人 ・英語指導 ・資料整理	・夏の体験ボランティア ・保育園の活動補助 ・児童館での活動補助 ・学童保育所での勉強指導 ・特別支援学校行事の手伝い ・講座受講中の保育 ・障害児への運動補助 ・小学生学習サポート ・保育
情報化社会		・視覚障害者に対するパソコン指導
国際協力	・海外支援活動団体での活動補助 ・英語圏の外国人に対する日本語指導 ・国際交流イベントの手伝い	
災害救助	・被災地支援 ・被災者でのマッサージ	
人権擁護・平和の推進	・貧困関係団体での手伝い	
職業能力開発・雇用機会	・障害者施設での手伝い	

の拡充		
その他	・パソコン組立 ・他のボランティアセンターでの活動 ・写真洗浄	

また、活動分野から見ると「保健・医療・福祉」と「子ども」の分野が多いのは昨年度同様だが、「まちづくり」の分野が昨年度以上に増えている。このことからも地域から寄せられる相談が増えていることが見て取れる。

(2)「市民活動」以外の相談

「市民活動」に関する相談以外にも、生活などに関する相談も寄せられている。

昨年度、「その他」の相談が最も多く、相談内容が見えずに数字として表れたため、「その他」の中でも寄附などの提供や、市民活動センターから団体への情報提供、視察の協力依頼などというように、相談内容を少し細分化させて今年度はデータをとったが、昨年以上にどの機関を訪ねたらよいのかわからない(新たな社会的課題や公的サービスの隙間など)相談が多いことも特徴である。これらのことから、社会状況を反映している生活に関する課題なども増えていると考えられる。

市民活動以外の相談の中で、もっとも多い「その他」の分野には以下のような相談がある。

「その他」の相談内容

職業	・保育(ファミリーサポート)の就職あっせんについて ・視覚障害者支援のガイドヘルパー資格を取りたい ・就職を斡旋してもらえるNPO団体を教えてほしい ・福祉作業所の求人募集 ・知的障害者の施設で働きたい ・離婚をして仕事を探している ・仕事をしながらNPO活動を進めていきたい
子ども・若者	・学校介助員の子どもの接し方について
高齢者	・市外の避難者の孤立問題について ・貧困者支援団体保護高齢者への見守り相談
法律・財産	・法律相談の予約について
その他	・麻雀をしている場について他県からの問合せ ・避難者家族からの相談 ・寄附金の問い合わせ ・歌のコンクール応募について ・家庭の悩みごと

〇今まで取り組んできた仕組み作りの例

・立川市、立川商工会議所、多摩信用金庫、日本政策金融公庫、そして立川市社会福祉協議会の５団体で始動した「たちかわ創業応援プロジェクト」では、創業支援事業に関する協定書締結式を平成 25 年 12 月 2 日に執り行いました。この協定に基づき、26 年度は、たちかわ創業支援連絡会が開催され、これに参画して連携を図ってきています。

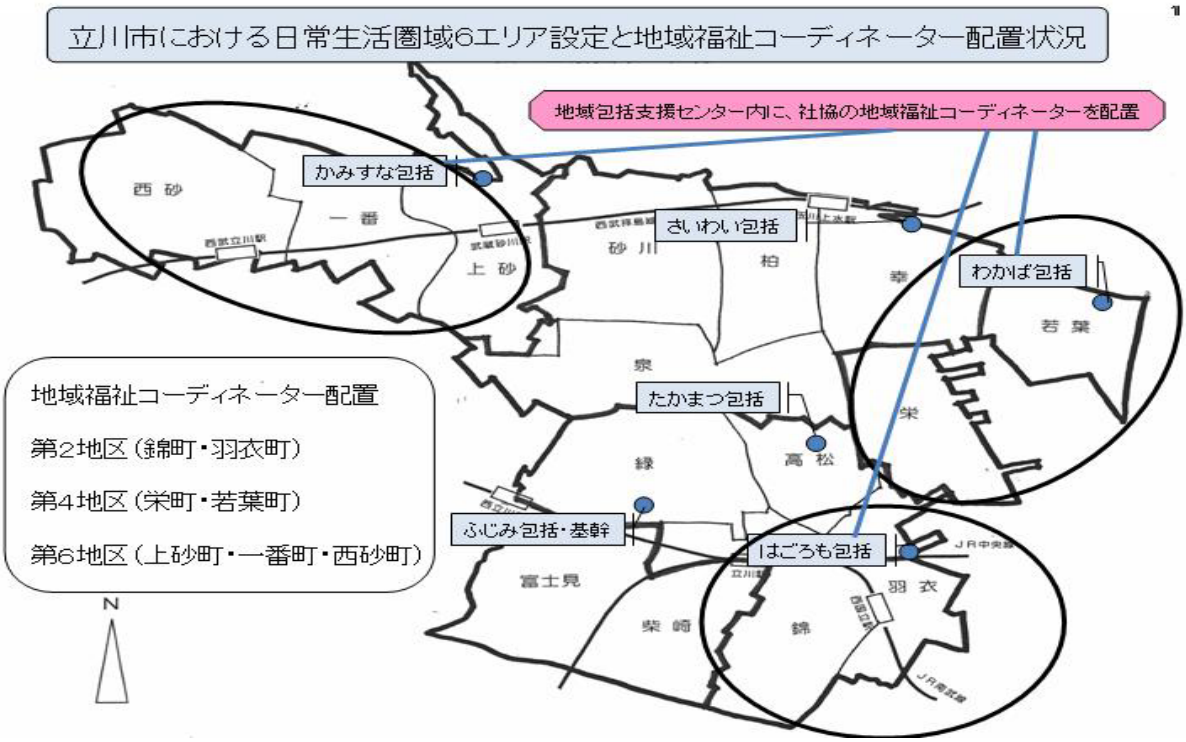
以前は、起業・創業の相談を受けている各機関、団体がそれぞれどのような取り組みをしているのか、横のつながりが弱かったために、十分に理解をしていませんでした。その結果、スムーズに適切な相談窓口を紹介することが困難でした。このたちかわ創業応援プロジェクトをきっかけに、NPO 法人や市民活動の相談が他機関・団体に入った場合には、当会をご案内いただけるようになりました。

Ⅱ 平成 26 年度地域福祉コーディネーター活動報告

人口の減少や少子高齢化の進展、家族や地域の支え合い機能の低下などが続く社会状況下、「孤立のないまち」「住民が心配ごとの解決に参加できるまち」を目指して、平成 19 年度(栄・若葉町)、平成 22 年度(上砂・一番・西砂町)、平成 25 年度(錦・羽衣町)に地域福祉コーディネーターを各地区に配置し、住民主体による福祉のまちづくりを進めてきた。

立川市社会福祉協議会が事務局となり市民と共に策定している地域福祉市民活動計画「第 3 次立川あいあいプラン 21」(平成 22 年度～26 年度)に掲げた、①住民が力を発揮し協働できるまち、②互いを尊重しともに生きるまち、③孤立なく支えあえるまち、④誰もが必要なサービスを利用できるまちを実現するための具体策でもあった。

平成 27 年度からは、立川市第 3 次地域福祉計画、地域福祉市民活動計画「第 4 次立川あいあいプラン 21」(平成 27 年度～31 年度)に基づき、地域福祉コーディネーターを全地区に配置し、活動をさらに進展させていく予定である。



平成 26 年度地域福祉コーディネーター活動報告

住民と協働して地域づくりを進める「地域福祉コーディネーター」を栄町･若葉町地区に専任で配置して 8 年、上砂町･一番町･西砂町地区に配置して 5 年、錦町･羽衣町に配置して 2 年が経過した。

対象を限定せずに地域内の多様な取り組みに関わりながら、地域課題を住民と共に発見し、人と人、活動と活動の結び目をつくりながら「孤立のないまち」「住民が心配ごとの解決に参加できるまち」を目指し、地域福祉活動を進めている。

(1)地域懇談会の開催

市民による課題の発見と共有化をし、さらに解決のための活動づくりを目指して開催している。

《錦町･羽衣町地区》

■障がいのある人もない人も暮らしやすい立川を考える会　地域懇談会

障害当事者や、家族、障害関係事業所と共に、ほぼ毎月定例会を開催している。コーディネーターは会場の手配や広報の実務で関わっている。東日本大震災以降、防災の問題は一貫して取り組んでいる。今後は地域の避難所運営委員会との関係づくりも模索する必要がある。

4/16(水)　今年度の活動計画について・子ども未来センターへの登録について検討 5 名
5/ 8(木)　7 月の学習会について検討　4 名
6/12(木)　7 月の学習会・広報について　5 名
7/10(木)　学習会準備　4 名
7/23(水)　学習会「障害者虐待防止法について」　20 名
8/ 4(月)　学習会の振り返りと施設見学について　5 名
9/10(水)　施設見学の検討と交流会の開催について　7 名
10/30(木)　「ゆうゆう」(知的障害者グループホーム)見学　7 名
11/13(木)　やきそば交流会について検討　7 名
1/13(火)　やきそば交流会準備と映画上映会について　7 名
1/17(土)　やきそば交流会　24 名
2/24(火)　交流会振り返りと映画上映会打ち合わせ　4 名
3/ 5(木)　映画上映会「逃げ遅れる人々」　17 名
3/24(火)　今年度の振り返りと次年度の活動案　6 名

■羽衣町 1 丁目第 2 アパート自治会

かつて孤立死の問題で、マスコミに取り上げられた団地であり、再発防止への意欲が高い住民が多い。平時と災害発生時の見守り機能を同時に高めていくための活動を通年で自治会に提案し、話し合いを持ちながら体操教室の運営や交流会､見守りの推進をするグループの立ち上げを支援した。

8/ 2(土)　役員会へ防災の学習会を提案、承認頂く
8/31(日)　「防災学習会」講師：立川市災害ボランティアネット　28 名
11/16(日)　今後の見守り活動について、住民と懇談　14 名

12/ 6(土)　自治会役員会にて「見守りの会」について提案、承認　12 名
2/ 8(日)　住民によびかけ「見守りの会」の必要性を提案。世話人を募る　25 名
2/14(土)　世話人 6 名と今後の活動について打合せ
3/ 8(日)　団地一斉清掃後の交流会実施　30 名
3/11(水)　世話人 7 名と、自治会総会の準備

《栄町・若葉町地区》

■「わかばの会（認知症の高齢者を支える家族の会）」の開催

平成 21 年度より毎月 1 回定例会を開催している。介護をしている家族同士で日頃の不安や心の疲れを出し合い、情報交換も行っている。家族を看取られた方も少しずつ増えてきており、市民による独立した組織として活動できるように長期的な支援をしたい。

○定例会　4/14（学習会 54 名）、6/9（3 名）、7/14（5 名）、8/11（2 名）、9/8（3 名）
10/20（4 名）、11/10（1 名）、12/8（4 名）、1/19（1 名）、2/9（3 名）、 3/9（3 名）

■男性介護者の集い

上記の認知症の高齢者を支える家族の会にも男性介護者は参加しているが、一般的に男性は女性が多い懇談の場に参加しづらく、女性以上に介護を負担に感じながらも一人で抱え込みがちである。そこで、わかば地域包括支援センターと共催で、状態が深刻化しがちな男性のみを対象に、懇談の場を偶数月（隔月）で開催している。参加者は近隣市からもみえており、認知症の方だけでなく、難病の家族を看病している人もいる。参加者同士が分かち合うことで肩の荷を降ろして帰っていく方も多い。引き続き協働開催をしながら、出された問題から現行の介護保険制度の課題についても考えていきたい。

○定例会　4/5（3 名）、6/7（2 名）、8/2（7 名）、10/4（7 名）、12/6（7 名）、2/7（3 名）

■障がいのある人もない人も暮らしやすい立川を考える会　地域懇談会

障害のある人が地域から排除されることなく、今以上に社会の構成員としての役割を果たしていけることを目指して、複数の団体と協働で栄町・若葉町地域懇談会として開催している。コーディネーターは会場手配、情報が伝わりにくい該当者への呼びかけなどを行っている。障害のある人もない人も共通の課題は防災であることから、発災時に障害のある方が地域で取り残されることがないよう、日ごろから地域と接点をつくるように心がけている。昨年度に引き続き今年度も、障害についての啓発活動、学習機会の醸成、障害当事者との交流活動を軸に活動を行った。

参加者：地域在住障害当事者、障害関係団体、民生委員障害福祉部会、有志の住民

○定例会・学習会・レクリエーション会
4/21(月)　今年度の活動計画について、映画上映会について　　12 名
5/21(水)　栄福祉会見学、映画上映会について（栄福祉会）　19 名
6/24(火)　映画上映会「生命のことづけ」の実施（若葉会館）　20 名
7/ 3(木)　映画上映会「生命のことづけ」の実施（さかえ会館）　23 名
7/ 9(水)　映画上映会振り返り、学習会について　10 名

9/ 3(水)　学習会「初心者向け防災講座」の実施（さかえ会館）　27 名
9/10(水)　映画上映会振り返り、レクリエーション会について　9 名
9/30(火)　学習会「初心者向け防災講座」の実施（若葉会館）　25 名
10/12(日)　障害当事者家族とのレクリエーション会「ハロウィンパーティー」開催（さかえ会館）40 名
11/19(水)　レクリエーション会振り返り、今年度の活動振り返り　9 名
2/18(水)　来年度の活動について、障害当事者家族との懇談　10 名

■若葉町団地自治会・URコミュニティ・民生委員・地域包括支援センター・社協による見守り懇談会（五者懇談会）

団地に暮らす高齢者の孤立死を防ぐために懇談の場を設けて隔月開催をしている。

当懇談会により、ＵＲコミュニティと地域包括支援センター、民生委員が連携することで緊急対応が速やかにできるようになった点が大きく、昨年度１月に団地で起きた火災についても、救助・安否確認等、自治会・民生委員・住宅管理協会・地域包括支援センターとの連携のもと、迅速な対応が実現した。また高齢単身世帯向けに、防災を切り口とした座談会を不定期に開催し、孤立防止のための住民相互の関係づくりも進めている（後述）。

参加者:若葉町団地自治会、若葉町団地担当民生委員･児童委員、UR コミュニティ、わかば地域包括支援センター

○若葉町団地見守り懇談会　定例会と主なテーマ

5/29(木)　第 18 回定例会「団地の見守り活動、今年度の活動について」8 名
7/29(火)　第 19 回定例会「要援護者リストと見守り支援者について」11 名
10/7(火)　第 20 回定例会「団地内の見守り活動、防災座談会について」11 名
12/2(火)　第 21 回定例会「防災座談会ふりかえり、防災イベントについて」9 名
1/27(火)　第 22 回定例会「防災イベントふりかえり、団地内の見守り活動について」10 名
3/17(火)　第 23 回定例会「団地内ボランティア活動のしくみづくり､来年度の活動について」6 名

■けやき台団地自治会・URコミュニティ・民生委員・地域包括支援センター・社協による見守り懇談会（五者懇談会）

若葉町団地同様に見守りに関する懇談の場を定期開催している。けやき台団地は自主防災組織が結成されており、交流活動を通しての人材発掘、孤立防止、災害時要援護者を団地独自にリスト化するなど活発な取組みをしている。

参加者:けやき台団地自治会、若葉町団地担当民生委員、ＵＲコミュニティ、わかば地域包括支援センター

○けやき台団地見守り懇談会　定例会と主なテーマ

5/26(月)　第 15 回定例会「サロン活動、今年度の活動について」 10 名
7/28(月)　第 16 回定例会「サロン活動、団地内の見守り活動について」 8 名
9/29(月)　第 17 回定例会「サロン活動、防災フェアについて」 9 名

11/17(月)　第 18 回定例会「サロン活動、防災フェアふりかえり」 7 名
1/19(月)　第 19 回定例会「サロン活動、団地内の見守り活動について」 7 名
3/23(月)　第 20 回定例会「サロン活動、団地内の見守り活動について」 5 名

《上砂町・一番町・西砂町地区》

■障がいのある人もない人も暮らしやすい立川を考える会　地域懇談会

障害のある人が地域から排除されることなく、今以上に社会の構成員としての役割を果たしていけることを目指して開催している。災害時要援護者支援のあり方や、障害当事者とその家族以外の地域住民との接点づくりを当面のテーマとし、障害当事者と地域活動者で共に取り組みを継続させていく。

参加者:地域在住障害当事者、障害関係団体(たつのこ、手をつなぐ親の会、自立生活センター・立川)、民生委員障害福祉部会、立川市災害ボランティアネット、グッドネイバー西砂一番、市議会議員

○定例会

5/ 8(木)　第 28 回地域懇談会　今後の活動についてアイデア出し　13 名
6/ 2(月)　「ランチの会」開催に向けてコアメンバー打合せ　6 名
7/ 3(木)　第 29 回地域懇談会　「ランチの会」準備　11 名
7/29(火)　「ランチの会」実施　参加者 25 名(子どもや新規参加者あり)
9/18(木)　第 30 回地域懇談会　地域向け企画検討のため「生命のことづけ」鑑賞
立川市災害ボランティアネットによる「助けられ上手」受講体験　14 名
10/30(木)　第 31 回地域懇談会 考える会全体会の進行状況共有 9 名
12 /4(木)　第 32 回地域懇談会 地域向け企画について協議 9 名
1/22 (木)　第 33 回地域懇談会 地域向け企画(難聴について)準備 6 名
2/17 (火)　第 34 回地域懇談会 地域向け企画「私が体験してきたこと～聞こえづらさを感じながら」(語り者:清水弘文氏)実施　21 名

■松中団地四者懇談会

高齢化と団地建替えに伴うコミュニティ崩壊を防ぐために、自治会、民生委員、かみすな地域包括支援センターと共に必要に応じて開催。個別ケースの支援や号棟ごとの見守り体制づくり、集会所を使った定期的なサロン開催など継続的な協働体制が定着した。自治会が役員だけではなく、団地内のちょこっとボランティアの参画など住民自治の輪も広がっている。

5/31(土)精神疾患のある住民への対応について　8 名

《3 地区合同》

■子育て支援懇談会

子ども支援ネットワーク会議に参画したり、地域から子育ての相談を受ける中で、既存の制度・サービスでは不十分であったり、市民だからこそ関われる領域があるのではないかと考え、一昨年度より、子どもの支援に関わっているボランティアや団体、行政の育児支援事業受託団体の方々と

共に、地域につながりのないご家庭に対する支援の可能性を協議してきた。昨年度実施の「ちょっと先輩の子育てサポーター養成講座」受講生企画を実施しながら、今後の地域活動の道筋をつけ一旦終了とした。

参加団体：ＮＰＯ法人ワーカーズコープ、チャイルドラインたちかわ、ミニトマの木、たすけあいワーカーズパステル､マザートゥリー(株)､ファミリーサポートセンター援助会員、ほっとほっとたちかわ、他個人ボランティア

6/21(土)　講座受講生へのフォローと今後の取組について　3名

9/ 8(月)　講座受講生企画について　9名

(2)交流の場づくり

《錦町・羽衣町地区》

■住民のつながりづくり

①錦六会自治会

8/18(月)体操教室体験会　参加者7名→体操グループ立ち上げ

②錦二の中町会

4/ 9(水)介護予防教室　参加者8名

4/16(水)介護予防教室　参加者3名

8/ 2(金)体操教室体験会　参加者2名 →隣の東和会で立ち上げ

③錦和会

7/12(金)介護予防教室　参加者14名

8/12(火)体操教室体験会 参加者5名 →8名で体操グループ立ち上げ

④羽衣中央会館

8/18(月)体操教室体験会　参加者2名 →声かけをして12名で体操グループ立ち上げ

⑤ぴんとれ体操会（錦学習館が拠点）

行政企画の体操教室の受講者が継続できるよう、社会教育団体の登録や会場手配を支援

⑥羽衣町みのわ会

5/14(水)介護予防教室 体操教室会員と打ち合わせ

6/ 4(水)介護予防教室参加者8名

⑦東羽衣会

6/25(水)介護予防教室　参加者14名

7/ 2(水)公園での中国体操見学会→開催には至らず

⑧錦みよし会

7/18(金)･28(月)福祉部の活動支援　打ち合わせ

9/29(月)高齢者向け宅配弁当試食会　参加者13名

11/15(土)救急救命講習　参加者9名　協力：日本防災士会東京都支部

⑨錦東会

自治会と災害時要援護者（自治会未加入者を含む)、地域包括支援センター、本会の四者による地

域の懇談会

9/27(土)自治会役員会に打診。その後、災害時要援護者リストをもとに 18 名を訪問するが、留守が多く、自治会に加入していないことからか懇談会への出席に消極的な方が多かった。懇談会の開催は難しく、別の形でリストをどう活用するのか考える必要がある。

⑩羽衣第 3 アパート自治会

6/ 1(日)アルファ化米炊き出し訓練　参加者 10 名

11/18(火)集会室でのヨガ教室体験会　参加者 8 名　→立ち上げにつながる

⑪羽衣町住宅管理組合自治会

10/19(日)役員会にて地域猫の取り組み、防災の取り組みについて説明　8 名

協力：環境対策課

⑫ステイツ立川中央（マンション管理組合）

3/10(火)茶話会実施　今後のマンションの交流事業について　5 名

■社協支え合いサロン立ち上げ支援

多世代サロン/スマイルヨガ　　計 1 グループ

《栄町・若葉町地区》

■男性のための料理教室（栄地区）

平成 21 年度から継続している事業。栄町地区グッドネイバーをすすめる会、立川介護老人保健施設わかばの栄養士、わかば地域包括支援センターの協働で毎月 1 回開催し、18 名前後の方が参加している。わかば地域包括支援センターが関わった方に参加を促すなどし、閉じこもりがちな方の社会参加に繋がっている。本教室をきっかけとして、地域へのボランティア参加を始めた方もおり、貴重な地域参加の場となっている。

■男性のための料理教室（若葉町地区）

市民ボランティア、わかば地域包括支援センターと協働で毎月開催し、毎回 18 名前後の方が参加している。栄町と同様、定年退職後の男性や地域との繋がりがあまりなかった方、虚弱な方も気軽に参加できる貴重な場となっている。

■認知症の家族向け「な無しのカフェ」

地域における認知症の方の居場所や出番づくりを兼ねたカフェを開くことで、さまざまな人が集い、情報の受発信ができる場を醸成することを目的に開催。チャンプルーの会・わかば地域包括支援センターの三者共催のもと実施。現在は地域のボランティアスタッフにより、認知症の方の送り迎えや、ゆるやかなつながりの場として今後継続的に実施予定。会場はひろばサラを利用。

1/29(木)　参加者 4 名　スタッフ 6 名

2/18(木)　参加者 4 名　スタッフ 4 名

3/19(木)　参加者 3 名　スタッフ 5 名

■住民のつながりづくり

防災をつながりとした懇談会・学習会の開催

自治会における懇談会を契機に、防災を通じたゆるやかな「顔の見える関係づくり」をすすめている。隣近所の付き合いが促されることが期待され、自主防立ち上げについての支援等も実施している。

①むさしの自治会

5/11(日)総会＆防災学習会　地域の防災士を招き講演会を実施　39 名参加

※現在もけやき台小学校避難所運営委員会等、地域の防災イベントにも積極的に参加いただいている

②第二団地自治会

11/22(土)地域活動についての学習会　自治会役員向けに開催　8 名参加

2/ 8(日) 防災･自治会懇談会　自治会員全員を対象とした防災懇談会　50 名参加

3/15(日)消火訓練　スタンドパイプ・消火器訓練の実施　45 名参加

③東栄会

12/20(土) 防災講座　35 名参加

改修された自治会公会堂の利用について、地域住民が集まりやすくするしくみ等、継続的に検討を重ねている

④若葉町団地

五者懇談会の中で、災害時における要援護者の支援を自治会としてスムーズに行うにはどうしたらよいか、という課題が挙がり、防災を切り口とした「要援護者同士が顔を合わせる機会」という位置づけのもと、昨年度より不定期に防災座談会を実施している。1 開催あたり 5～6 棟の住民を対象に今年度は 1 回開催。民生委員（対象者のみ）・自治会・地域包括支援センター・ＵＲコミュニティの 4 者も参加。

11/11(火)　安否確認訓練　参加者 7 名

若葉町団地では、要援護者世帯に黄色いスカーフを配布し、大規模災害時に玄関やベランダに結びつけることで、近隣住民に自身の安否を知らせる訓練を定期的に実施している。社協としても地域包括支援センターと共に参加し、気になる方の発見、声掛けを随時行っている。

12/13(土)　住民向け防災講座「防災ピクニック」も併せて実施

■いなげや立川栄町店との協働事業

5 月に地域包括支援センターと協働で開催した認知症サポーター養成講座のつながりで、いなげや立川栄町店のイートインコーナーを活用した健康福祉講座を地域包括支援センターと共催で全 4 回実施。

10/22（水）　10:00-12:00　第 1 回　健康福祉講座「脳トレ、体験しませんか」　参加者 20 名

11/ 5（水）　10:00-12:00　第 2 回　健康福祉講座「食と栄養について」　参加者 8 名

11/19（水）　10:00-12:00　第 3 回　健康福祉講座「口腔ケアと口腔体操」　参加者 13 名

12/10（水）　10:00-12:00　第 4 回　健康福祉講座「ＡＥＤ講習会」　参加者 15 名

■社協支え合いサロン立ち上げ支援

高齢者サロン／やすらぎサロン、それいゆ、新緑クラブ
子育てサロン／もぐもぐ、ＪＡＪＡうま、スプリングベイビー
その他　　／くるみ、けやき太極拳、甲呂の会　　計 9 グループ

《上砂町・一番町・西砂町地区》

■障害児の親御さん向け茶話会「ホッとひとときカフェ」

当事者団体にもつながっておらず孤立しがちな障害児のいる家庭が、同じ立場にある地域住民とつながれる機会をつくるために開催。立川市手をつなぐ親の会と立川市肢体不自由児者父母の会たつのことの三者共催とし、「こういう集まりに参加するのは初めて」という親御さんを、すでに経験を踏んできた当事者親団体の会員がサポートしながら相互交流する機会となっている。「自身も障害当事者」という方も複数参加されている。発達障害児を持つ親御さんを主にした土曜日開催も試行したが、平日参加が出来る方たちであったため「ホッとひとときカフェ」に一本化した。

茶話会実施>4/8(火)4 名、5/13(火)3 名、6/10(火)9 名、7/8(火) 4 名、8/12(火)4 名
9/9(火)4 名、10/14(火)3 名、11/11(火)3 名、12/9(火)9 名、1/13(火)3 名
2/10(火)5 名、3/10(火)7 名

発達に凸凹のあるお子さんがいらっしゃる方のための茶話会試行実施
9/13(土)2 名、10/11(土)2 名

■男の料理教室

退職した男性の地域参加と仲間づくりを目的に、かみすな地域包括支援センターと協働実施。6 月以降は「にしすなクックパパ」として自主グループとなり月 1 回の継続開催をされている。参加者同士が別の機会に誘い合ったり、講師を同一とする若葉町の男性料理教室のメンバーと 1 泊旅行に行かれるなどつながりを広げられている。

教室実施>4/17(木)17 名、5/15(木)19 名

■住民のつながりづくり

①一番町東団地自治会

集会所での月 1 回のお茶飲みサロンは定着した。日頃からの住民相互の見守り活動の進展のために、自治会、民生委員、地域包括支援センターと共に防災学習会を企画、実施した。

10/17(金)自治会防災部長、民生委員、立川市災害ボランティアネットと四者で防災学習会打合せ
11/15(土)立川市災害ボランティアネット池永氏、新井氏を講師に防災学習会開催　参加者 21 名

②天王橋自治会

集会所での隔月開催茶話会、定例学習会実施、防災訓練時のブロックごとの安否確認訓練が定着。
7/13(日)8/10(日)かみすな包括による出前学習会実施　テーマは「終の住処」「栄養と食事」
9/ 1(月)防災訓練・安否確認訓練打合せ　地域福祉市民フォーラム打合せ
9/21(日)防災訓練・安否確認訓練実施　防災学習会実施　参加者 22 名
立川市災害ボランティアネット 3 名

11/15(土)地域福祉市民フォーラムで自治会長がパネリストとして活動の取組を発表

③市営一番町北住宅

前年度から、高齢世帯も多い住宅での孤立防止を目的に団らん室を活用した学習会を開催。定例サロン実施にはつながらず。次年度初期段階で2号棟の住民管理人、協働推進課、かみすな地域包括支援センター、住宅管理課と懇談会を実施するため調整中。

5/13(火)包括職員による介護サービス説明会実施　参加者15名

1/ 9(金)住宅管理課住宅管理係主催の2号棟入居者説明会に協働推進課(自治会結成の誘い)、かみすな地域包括支援センターと共に今後のコミュニティづくりをご一緒したい旨を説明に伺う。

④AYUMO CITY立川自治会

西武立川駅前新興住宅の新しい自治会。早い段階からの住民コミュニティづくりを提案しながらご一緒している。

4/26(土)AYUMO CITY立川自治会新役員会に参加し、あいさつと事業説明

8/24(日)AYUMO CITY立川・昭島・ソルヴィエントメイツ西武立川三者合同夏祭りにかみすな地域包括支援センター、西砂児童館と共に出店参加

11月に昭島市民児協・昭島市社協から「AYUMO CITY内に子育てサロンを立ち上げたい」との相談を6地区民協、西砂児童館と共に受ける。マンション交流室内での出張児童館開催など検討していたが、3月に西武立川駅8分の昭島市内会館で、昭島社協のサロン制度を利用しママサロンが立ち上がった(立川市在住者でも参加可)。

⑤中里自治会

6/14(土)自治会長より自治会エリア内未加入集合住宅での地域猫トラブルの相談が入る。

6/19(木)自治会長・副会長と7/19役員会研修打合せ

6/20(金)自治会長・副会長、不動産会社、環境対策課とで地域猫について協議

→自治会としての取組はできないということに。その後、自治会とは別に地域猫グループが立ち上がった

7/19(土)自治会役員向け研修実施「社協活動や会費について」参加者20名

⑥西砂自治会

6/6(金)自治会長より都地域の底力再生事業助成を活用した「高齢者見守りキャンペーン」構想の相談受け

8/8(金)自治会長、地域包括支援センター職員と今後半年間の事業進行イメージ共有

9月敬老の集いで包括・社協から講演→高齢者見守り隊結成→10月に出前寄席→安心カード配布→12月に認知症高齢者徘徊模擬訓練実施

9/2(火)･11(木)自治会長、包括職員と事業進行詳細打合せ

9/13(土)敬老の集いで、包括職員と共に「いざというときのご近所力」講演　参加者19名

今後の高齢者見守りキャンペーン事業について自治会長より住民へ説明

10/23(木)自治連西砂支部広報担当者と自治会長､地域包括支援センターと支部内での安心カード汎用について懇談

11/27(木)認知症高齢者徘徊模擬訓練打合せ(自治会長、民生委員、6 地区民協会長、かみすな・ふじみ包括、協力事業所　計 9 名)

12/ 7(日)認知症高齢者徘徊模擬訓練実施。参加者 39 名(自治会 13 他地区 18 関係機関 8)

■支えあいサロン立ち上げ支援

高齢者サロン/立川そよかぜトリム、ラビット、ひまわり仲良し会、イレブンピア

計 4 グループ

(3)調査・広報活動

《錦町・羽衣町地区》

■地域広報紙「まちねっと～錦町・羽衣町」の発行

錦町、羽衣町を対象に 4 回（7 月、10 月、12 月、2 月)、約 13,500 部を各戸配布した。前年度にくらべ、ようやく企画などへの反応が返ってくるようになり、読まれている様子が伺える。

■自治会長ヒアリング

羽衣町の前年度にヒアリングできなかった自治会長を対象に行った。そこから介護予防教室の提案をするなど、取り組みにつなげることができ、貴重な情報をもらうことができた。

羽衣町住宅管理組合自治会　都営羽衣町 1 丁目アパート自治会　羽衣町二丁目北町会

《栄町・若葉町地区》

■地域広報紙「まちねっと～栄町・若葉町」の発行

栄町、若葉町を対象に 5 回（5 月、7 月、10 月、12 月、2 月)、約 12,000 部を各戸配布した。わかば地域包括支援センターと協働で作成しており、介護の記事を読んでの相談も増えている。また企画したイベントも本紙を見ての参加が多くなってきた。

《上砂町・一番町・西砂町地区》

■地域広報紙「まちねっと～上砂町・一番町・西砂町」の発行

かみすな地域包括支援センターと協働で 7 月・10 月・2 月に約 14,140 部を各戸配布した。公共施設、相談センター、郵便局、病院、商店にも設置協力をいただいた。コーディネーター担当誌面については、住民による地域活動情報の媒体となることを目的として発行した。

(4)その他

《錦町・羽衣町地区》

■講演会・学習会

①南部東はごろも地域包括支援センター介護予防教室他

運営の補助と、参加者への情報提供、相談対応を行った。

4/23(水)10:00-12:00「伸ばしましょう！健康寿命」

7/25(金)10:00-12:00「夏バテ予防の衣・食・住」

9/26(金)10:00-12:00「しっかり食べて低栄養防止」
10/7(火)14:00-15:00 シルバーピア羽衣懇談会
10/24(金)10:00-12:00「悪徳商法と消費者被害」
11/28(金)13:00-15:30　第七小学校5年生「認知症サポーター養成講座」
12/12(金)10:00-12:00「終活セミナー　あなたと大切な人を結ぶノートづくり」

②錦学習館運営協議会企画

日ごろ学習館を利用している団体向けに、定例の活動日に合わせ20分程度の時間を頂き、包括支援センターによる介護予防教室を開催した。学習館職員の働きかけで錦学習館運営協議会を含めて、10団体141名の受講が実現した。短時間ではあるが、包括支援センターの機能や、認知症状が気になる方への対応法など、受講した方からは「知ってよかった」という感想を頂いている。形を工夫しながら、来年度以降も継続していきたい。

10/6(月)錦学習館運営協議会(8名)、11/21(金)生活の知恵を学ぶ会(9名)、
12/10(水)錦やよい会(18 名)、1/17(土)グループ影(2 名)、1/19(月)ダンス月曜会(28 名)
1/20(火)ダンスサークルひまわり(31名)、1/30(金)立川ハーモニーメイツ(5名)、
2/10(火)俳句錦の会(14名)、2/24(火)やさしいパソコン錦の会(16名)、
2/25(水)はつらつ健康体操(10名)　　受講者合計141名

■地域団体との共催事業

①子どもの未来を考える会、羽衣児童館（NPO法人ワーカーズコープが指定管理者)、ボランティアとの協働による学習支援

「子どもの貧困」が言われる中、学習支援を通じた支援を行いたい団体・有志で羽衣児童館を拠点に寺子屋事業を行った。協働による開催は3月で一区切りとなるが、引き続き羽衣児童館主催で事業を継続することとなった。

期間　11/1～3/7毎週土曜日開催　全17回
対象　小学校3年生～6年生　　登録者数30名
内容　宿題の支援　（実際には寺子屋の側で教材を用意することが多かった)
成果　登録した子どもの約1割が、普段児童館や学校で気にかけている子であった。子どもにとってはリラックスした居場所になっていて、学力低下の防止につながると考えられる。
その他　ボランティアの養成と啓発をかねたシンポジウム（子どもの未来を考える会主催）に協力をした。
11/16(日)　13:30-15:00「子どもの貧困フォーラム」講師：流石智子氏　参加者30名

②三多摩フードバンク事業

羽衣町にあるNPO法人さんきゅうハウスを中心に三多摩のホームレス支援団体が連携した事業に参画した。フードバンクの普及やホームレスの方への支援を目的とする。

同時に、NPO 法人さんきゅうハウス、ワーカーズコープが主となり、現在ホームレスの方向けに行っているフードバンク事業を、子どもがいる貧困世帯などにも拡充できないか模索をした。

打合せ　1/29(木)出席者3名・社協2名、2/19(木)出席者9名・社協2名
3/14(土)出席者7名・社協2名

結果　2/13（金）と 3/13(金)の 2 回にわたって、行政の支援機関や自助グループを通じてパンの配達を必要としている世帯の掘り起こしをしたが、該当する世帯はほとんど挙がってこなかった。関係機関の職員と情報交換をしたところ、ニーズがないわけではないので、今後は必要とする人にサービスが届くように、「申込書」を作成するなどの工夫をして継続することにした。

また砂川高校通信制で月に 1 回開催する生徒向けの「カフェ」でも活用できるように準備をしている。

③子育て支援団体との協働

出産後、母子が自宅に閉じこもりがちになるのを防ぐために、乳児と一緒に参加できるイベントを開催する必要があることを子育て中の方々から聞くことが増えた。今年度立ち上がったグループ「ワッカチッタ」、NPO 法人ワーカーズコープとの協働で、11 月より毎月 1 回、「ワッカフェ」というイベントを子ども未来センターにて開催した。毎月色々な企画が考えられ、定員を超えた申込がある。コーディネーターは、助成金の紹介やイベント時の見守り保育ボランティアの確保などで協力した。運営がスムーズにいき、早い時期から母子が地域と繋がれるよう今後も協働して行きたい。

打ち合わせ　8/22(金)　ワッカチッタメンバー8 名

ワッカフェ　11/28(金)　12/22(月)、1/23(金)、2/20(金)、3/20(金) すべて 10:00-12:00

■課題解決のためのしくみづくり

①防災・減災のまちづくり

すでに東日本大震災直後に見られた防災意識の高さは低下しつつあるが、首都直下地震に備え色々な角度からの対策に取り組みたい。

・錦町自治会連合会との連携

平成 25 年～26 年にかけて、錦町では立川市防災課による防災モデル地区推進事業が行われた。コーディネーターは障害がある方への参加呼びかけなどで協力をした。27 年度に避難所運営委員会が立ち上がる際、障害のある方や高齢者への配慮が反映されるようにしたい。

5/29(木)　立川市防災モデル地区推進事業（避難所の実情や課題を知る）

7/13(日)　〃　（避難所の点検）

9/28(日)　自治連錦町支部防災訓練

10/2(木)　立川市防災モデル地区推進事業　（避難所の利用方針・運営体制の検討）

11/26(水)　〃

1/29(木)　〃

・地域自治会等との連携

6/1(日)　羽衣第 3 アパート自治会「アルファ化米炊き出し訓練」（再掲）

8/31(日)　羽衣町 1 丁目第 2 アパート自治会「防災学習会」28 名（再掲）

講師：立川市災害ボランティアネット

9/27(土)　錦東会役員会　「災害時要援護者との懇談会について」（再掲）

・立川市災害ボランティアネット、他有志との協働

前年度に4名の有志で「ペットがいる家庭向け防災講座」を作成し、今年度活用するに至った。11/13(木)打合せ、11/20(木)18:00-20:00 子ども未来センターにて開催。参加者13名。

その後、環境対策課と立川市地域猫連絡会主催による学習会で講座を開くことができた。パンフレットも完成したので、広く呼び掛けていきたい。

②ひとり暮らしの女性の会

単身の女性世帯が多くなっているが、定年まで勤めていた方の中には「地域とのつながりがほとんどない」「ちょっとした家事などを気軽に頼み合える知人が近くにいない」という方が多い。孤立解消や、助け合いを促進することを目的に一人暮らしの女性が知り合いを増やす場を企画した。(はごろも地域包括支援センターが共催)

実行委員会 11/22(土) 4名　　1/15(木) 2名

イベント　2/26(木)13:30-15:30　参加者8名　実行委員3名　　ゲスト：下坊さか江氏

3/25(水)13:30-15:30　参加者12名　実行委員4名　　ゲスト：加藤勝子氏

助け合いの仕組みについての学習会　3/20(金)　講師：結サポートセンター今井氏

《栄町・若葉町地区》

■講演会・学習会

①地域包括支援センターとの共催事業

○学習会「うつ病ってどんな病気？」

日　時　平成26年6月25日（水）　若葉町地区　10:00-11:30　　栄町地区　14:00-15:30

場　所　若葉会館　さかえ会館

講　師　国立精神・神経医療研究センター病院　精神看護専門看護師　佐伯幸治氏

参加者　若葉町地区　38名　　栄町地区　43名

○学習会「老人ホームってどんなところ？」

日　時　平成26年7月25日（金）栄町地区　10:00-11:30　　若葉地区　14:00-15:30

場　所　若葉会館　さかえ会館

講　師　わかば地域包括支援センター職員　　みんかい相談員（民間介護施設紹介センター）

参加者　若葉町地区　35名　　栄町地区　31名

○学習会「病院のしくみについて知りましょう」

日　時　平成26年10月15日（水）10:30-12:00

場　所　若葉会館

講　師　立川相互病院　サポートセンター　看護師長　富川郁子氏

参加者　24名

○学習会「ボランティア講座　～認知症の方への対応と地域参加について～」

チャンプルーの会からの要請を受け、チャンプルースタッフ向けに標記学習会を実施。これを機に、「認知症カフェ」開催に発展した。

日　時　平成26年10月24日（金）　13:30-15:00

場　所　けやき台団地（国分寺市）　集会室

講　師　わかば地域包括支援センター職員、地域福祉コーディネーター

参加者　14 名

○学習会「耳寄りな耳のお話　～きこえと補聴器～」

日　時　平成 26 年 12 月 17 日（水）　栄町地区　10:00-11:30　若葉町地区　14:00-15:30

場　所　幸学習館　若葉会館

講　師　リオネットセンター立川　小川雅巨氏、わかば地域包括支援センター職員

参加者　栄町地区　34 名　若葉町地区　32 名

○学習会「タバコってやめられるの！？」

日　時　平成 27 年 2 月 17 日（火）14:00-15:30

　　平成 27 年 2 月 24 日（火）14:00-15:30

場　所　立川新緑クリニック　さかえ会館

講　師　国立病院機構　村山医療センター　内科医長　岡田泰昌氏

参加者　若葉町地区　10 名　　栄町地区　18 名

○学習会「認知症ミニ勉強会　～認知症の方への接し方～」

サラおしゃべり会（サロン）からの要請を受け、標記学習会を実施。

日　時　平成 27 年 3 月 10 日（火）13:30-15:00

場　所　ひろばサラ

講　師　わかば地域包括支援センター職員

参加者　16 名

○わかば地域包括支援センター＆地域福祉コーディネーター活動報告会

高齢者支援や介護予防活動を自治会や老人会と連携して取り組んだ活動事例を参加者にも発表してもらい、地域包括支援センターの機能、地域福祉コーディネーターの機能について知っていただく報告会を開催。

・平成 26 年度活動報告会（若葉町）

日　時　平成 27 年 3 月 25 日（月）　／場　所　若葉会館　　／参加者 42 名

・平成 26 年度活動報告会（栄町）

日　時　平成 27 年 3 月 27 日（金）　／場　所　さかえ会館　／参加者 31 名

②その他

○学習会「認知症の理解」（わかばの会、地域包括支援センターとの共催）

地域における認知症の方への理解・把握を目的に、わかばの会・地域包括支援センターとともに学習会を行った。

日　時　平成 26 年 4 月 14 日（月）13:30-15:00

場　所　若葉会館

参加者　54 名

○映画上映会「言葉のきずな」（さくら会、地域包括支援センターとの共催）

啓発活動の一環として、失語症の方と地域でともに歩むことを目的に、さくら会・地域包括支援センターとともに「言葉のきずな」の映画上映会を行った。

日　時　平成 26 年 5 月 28 日（水）14:00-16:30

場　所　女性総合センター・アイム

参加者　148 名

■地域団体との協働事業

①認知症サポーター養成講座と地域活動学習会の並行開催

わかば地域包括支援センターで行う認知症サポーター養成講座と共に、地域活動の学習会について並行開催を実施した。

睦会　平成 26 年 5 月 29 日（木）10:00-11:30　参加者 5 名

けやき台小学校（第 4 学年）　平成 27 年 1 月 16 日（金）13:30-15:30 参加者 93 名

平成 27 年 1 月 21 日（水）10:30-12:30 参加者 91 名

②睦会との共催による学習会・講座等

○学習会「日常生活自立支援事業・成年後見制度について」

判断能力がなくなった時の生活の判断を誰に任せるのか、また亡くなったときに家族が慌てないためにどんな準備をしておくべきか、などの疑問や不安に応える講座を実施した。

日　時　平成 26 年 11 月 11 日（火）10:00-11:30

場　所　睦会公会堂　集会室

講　師　地域あんしんセンターたちかわ職員

参加者　4 名

○健康体操「体にいいヨガ教室」

リハビリデイサービス nagomi の理学療法士を招いて、高齢者を中心としたヨガ教室を開催。失禁対策の体操等、専門家の視点でプログラムされた健康体操を実施した。

日　時　平成 26 年 12 月 16 日（火）14:30-16:00

場　所　睦会公会堂　集会室

講　師　リハビリデイサービス nagomi　安田大地氏

参加者　2 名

○学習会「エンディングノートについて」

日　時　平成 27 年 2 月 25 日（水）10:00-11:30

場　所　睦会公会堂　集会室

講　師　地域福祉コーディネーター

参加者　5 名

③栄町地区グッドネイバーをすすめる会との共催による学習会

昨年度の終末期をテーマとした学習会をきっかけとして、栄町地区グッドネイバーをすすめる会独自の私ノート（エンディングノート）を刊行。わかば地域包括支援センター、地域福祉コーディネーターも作成に協力した。なお完成したノートを実際に記入する体験学習会を実施。平成 27 年度についても引き続き継続実施予定（第 2 回目は 4/17）。

○学習会「私ノートづくりをしませんか？」

日　時　平成 27 年 3 月 13 日（金）13:30-15:00

場　所　幸学習館

参加者　25 名

④若葉町福祉を考える会との共催による学習会

終末期について考える講座を全3回に渡り実施。わかば地域包括支援センターと共に、気になる方への声掛けも併せて行った。

○学習会「終末期を考える（連続講座)」

日　時　①平成26年10月10日（金)「エンディングノートについて」

②平成26年11月 7日（金)「遺言について」

③平成26年12月12日（金)「葬儀について」

場　所　若葉会館

参加者　①42名　　②25名　　③37名

⑤さかえ会館との共催による学習会

毎年「志民講座」と銘打った学習会を共催実施している。学習会終了後は栄町地区グッドネイバーをすすめる会とともに、地域活動やボランティア活動についての報告や紹介を行った。

○学習会「笑いを通じた健康づくり」

日　時　平成27年2月15日（日）13:30-16:00

場　所　さかえ会館

参加者　45名

■課題解決のためのしくみづくり

①ママビクス＆ベビーマッサージの開催

幸学習館運営協議会に参画し、常時地域向けの企画を提案している。中でも子育て向けの本企画については、5年前からの定番事業となり今年度も5月から7月にかけて、全6回の連続講座を開催した。生後6ヶ月までの乳児を持つお母さん15組を対象として開催し、キャンセル待ちは20組を超えるほどの盛況である。企画を通じ、地域における子育てに関する悩みを分かち合う、貴重な機会となっている。

成果としては、サロンの立上げに結びついて地域の居場所作りが広がったこと、その参加者が人材となって各種学習会・地域活動に結びつくなど、地域活動の広がりに貢献してもらっていることが挙げられる。「仲間作りをしたい」という声に今後も応えていきたい。

②見守り保育ボランティアとの連携

ボランティア活動が初体験である方を誘い出しながら、見守り保育ボランティア人材を確保し、紹介できる体制づくりを行っている。子育てがひと段落したり、孫の世話をされている方からの参加希望が多く、ボランティア活動スタートのきっかけとして定着している。ボランティア相互の交流も期待され、今後もまちネットを中心に周知を重ね、地域での輪を拡げていく。

③「共にきらっと生きる」・若葉町団地自治会・民生委員・地域包括支援センター・社協による地域懇談会（五者懇談会）

若葉町団地の一角で､デイサービスと並行して地域コミュニティ事業を展開する一般社団法人「共にきらっと生きる」と共に、地域で暮らす高齢者の孤立防止や、前期高齢者を対象とした居場所・出番づくりを考える懇談の場を設け、定期開催をしている。当懇談会により、自治会、地域包括支援センター、民生委員が連携することができ、また商店街活性化の一役も担っている。今後はテー

マ・内容ごとに参加団体を増やしていく予定である。

参加者:「共にきらっと生きる」、若葉町団地自治会、若葉町団地担当民生委員・児童委員、
わかば地域包括支援センター

○定例会と主なテーマ

12/25(木)　第1回定例会「共にきらっと生きる事業内容について、今後の活動について」
8名

④けやき台小学校避難所運営委員会の活動推進

平成24年12月に立ち上がった本運営委員会では、障害当事者や高齢者が発災時に取り残されないよう、また各自治会での災害対応と連動することが出来るようになることを目的として、定期開催されている。現在では12自治会の合意のもと、平成27年3月を期限に避難所運営マニュアルの改訂作業を実施。けやき台小からの公開授業の要請も請けながら、地域住民自らが参加し、学ぶ機会を常時醸成している。

6/14（土）　けやき台小学校避難所運営委員会
10/18(土)　けやき台小学校避難所運営委員会
3/28（土）　けやき台小学校避難所運営委員会

※現在、12自治会を「総務班」「管理情報班」「保健衛生班」「食糧物資班」の4班に分け、班ごとに避難所運営マニュアルの改訂作業を常時実施中。来年度からは運営マニュアルをもとにしたシミュレーション訓練を実施予定。

10/18(土)　けやき台小学校減災訓練（公開授業、6年生対象）
3/28（土）　けやき台小学校防災訓練（避難所運営マニュアル完成披露込み）

《上砂町・一番町・西砂町地区》

■講演会・学習会

①茶話会・サロン世話人会

同一圏域内の世話人さん同士の交流を目的に開催した。プログラムアイデアの共有やグループ間で行き来する約束をし合うなどの懇談となった。

日　時　　平成27年3月10日(火)14:00-16:00
会　場　　砂川園食堂
参加者　　13グループ27名

■地域団体との協働事業

①グッドネイバー西砂一番、かみすな地域包括支援センターとの三者協働

前年度より地域福祉学習会を共催で開催することが定着。今年度は2回開催した。

○地域福祉学習会「いつまでも健康でいるための食」

日　時　　平成26年10月18日(土)10:30-13:00
会　場　　西砂学習館
講　師　　金成なつみ氏(㈱いなげや在宅食生活サポート事業部管理栄養士)
内　容　　「健康と食」のおはなし / 簡単な調理実習と試食

参加者　　21 名

○地域福祉学習会「自宅で受けられる医療サービス」

日　時　　平成 27 年 1 月 24 日(土)13:30-15:30

会　場　　西砂学習館

講　師　　齋竹一子氏(@訪問看護ステーション所長･看護師)

内　容　　在宅医療サービスの種類と利用方法/ 介護保険と医療保険の違い
　　近隣の在宅医療機関情報

参加者　　33 名

②西砂児童館(ワーカーズコープ運営)との協働

子ども未来センターや子ども家庭支援センターからは距離がある本地区で、西砂児童館が子どもや子育て支援に関わる住民の拠点となることを共に思い描きながら協働事業を展開した。

○フリースペース

毎週(土)13:00-17:00 に西砂学習館運営協議会企画として開催してきた中高生フリースペースを 7 月より欠食防止も目的に西砂児童館事業として第 1・3(土)10:00-13:00 に開催移行となった。今後は学習支援の協働なども念頭に置いていく。

○子育てサポート講座「「発達に凸凹のある子どもとの日々～父親の立場から」

日　時　　平成 26 年 8 月 23 日(土)14:00-16:00

会　場　　松中小学校

講　師　　荻原　稔氏(都立青峰学園教諭)

参加者　　27 名

9 月・10 月第 2(土)14:00-16:00 に「発達に凸凹のあるお子さんがいらっしゃる方のための茶話会」試行実施。各回参加者 2 名であったため「ホッとひとときカフェ」に一本化

○お腹の中からはじめるセミナー「胎教って?」

日　時　　平成 26 年 11 月 21 日(金)10:00-12:00

会　場　　西砂児童館

講　師　　飯田めぐみ氏(産婦人科保健師)

参加者　　8 名(妊婦 6 名　サポーターママ 2 名)

○新興住宅住民へのアプローチ

西武立川駅前の新興住宅地区に子育て世代の転入者が多いため自治会との関係性づくりや子育てサロン立ち上げ相談など共に携わった。

8/24 AYUMO CITY 立川・昭島・ソルヴィエントメイツ西武立川三者合同夏祭りに共に出店参加

11 月に昭島市民児協・昭島市社協から「AYUMO CITY 内に子育てサロンを立ち上げたい」との相談を 6 地区民協と共に受ける。マンション交流室内での出張児童館開催など検討していたが、3 月に西武立川駅 8 分の昭島市内会館で、昭島社協のサロン制度を利用しママサロンが立ち上がった(立川市在住者でも参加可)。

○ちょっと先輩の子育てサポーター養成講座

妊婦や乳幼児親子の孤立と困窮化を未然に防ぐため、支援を必要とする市民に近い「ちょっと

先輩のママサポーター」を地域でネットワークすることと、小さな子どもがいる母親の社会参加創出を目的に開催した。今後、講座修了生の懇談会と自主企画の実施を支援していく。

日　時　平成 27 年 2 月 26 日(木)、3 月 5 日(木)、3 月 12 日(木)10:00-12:00

場　所　西砂児童館

講　師　日原みちる氏（株）マザートゥリー代表

内　容　脳のしくみ／こころと身体の発達／話の聴き方／コミュニケーションのとり方
こころと身体のしくみ　・・各回とも座学とワークによる講義

受講者　12 名

■課題解決のためのしくみづくり

○災害時要援護者を地域で支えるしくみづくり

平成 23 年 3 月 11 日の震災を受けて、災害時に近隣住民同士が助け合えるための取り組みが急務となった。特に高齢者や障害者、子ども、外国人など災害時において普段以上にサポートが必要となる人たちを支えるしくみづくりを広げていくこととなった。

災害時を想定しての取り組みは、日常での孤立防止にもつながるという視点で引き続き、多様な機会を捉えて臨んでいく。

・自治会連合会との連携

5/28(水)　砂川支部防災ワークショップ⑤(避難所運営)

7/6（日）　砂川支部防災ワークショップ⑥(上砂川小内避難所点検)

9/25(木)　砂川支部防災ワークショップ⑦(避難所運営)

9/26(金)　自治連西砂支部防災訓練実行委員会

10/15(水) 自治連西砂支部防災訓練実行委員会

10/26(日) 自治連西砂支部防災訓練

11/20(木) 砂川支部防災ワークショップ⑧(避難所運営)

1/26（月）砂川支部防災ワークショップ⑨(避難所運営)

・地域自治会などとの連携・協力

9/1　(月) 天王橋自治会防災訓練・安否確認訓練に向けた四者打合せ(自治会・民生委員・包括)

9/9　(火) 一番町東団地防災訓練・安否確認訓練に向けた四者打合せ(自治会・民生委員・包括)

9/21（日）天王橋自治会防災訓練・安否確認訓練実施
防災学習会・会館備蓄情報交換会(立川市災害ボランティアネット協力　参加者 22 名)

10/17(金) 一番町東団地自治会防災学習会打合せ(自治会防災部長、民生委員、立川市災害ボランティアネット)

11/15(土)一番町東団地自治会防災学習会実施(立川市災害ボランティアネット協力　参加者 21 名)

《3 地区合同》

■「ちょっと先輩の子育てサポーター養成講座(平成 25 年度)」受講生発案講座の企画

前年度に開催した「ちょっと先輩の子育てサポーター養成講座」を受講した方と一緒に、子育て中の方向けの企画を立て、実施した。最近の母親世代が参加したいと思う企画案を出して頂き、イベントメニューを増やすことができた。またこの企画は子ども未来センターで開催したが、市内の別の地域にも波及した。受講生の中には団体を立ち上げ、継続的に子育て支援のサービスを提供する方もいて、本会も運営上のサポートをするなど協働につながっている。

受講生との振り返りでは、受講をしたことで身近な子育て中の方をサポートする心境に変化していたり、実際に相談を本会につなげてくれるなどの変化が出された。地域づくりの主体として期待し、今後も企画の際には協力を依頼していく。

5/30(金)　胎教って～お腹の中からはじめる子育てセミナー　参加者 8 名
　　見守り保育ボランティア　3 名　　先輩ママ　3 名　ワーカーズコープ 2 名
6/30(月)　マタニティフォト撮影会＆写真のイロハ講座　参加者 13 名
　　見守り保育ボランティア 3 名　先輩ママ 4 名　ワーカーズコープ 1 名
　　主任児童委員 1 名
　　共催：NPO 法人ワーカーズコープ（両企画とも）
9/17(水)　受講生との振り返りの会　6 名

■ちょっと先輩の子育てサポーター養成講座

前年度に子育て支援懇談会にて企画された講座を地域を変えて実施した。妊婦や乳幼児親子の孤立と困窮化を未然に防ぐため、支援を必要とする市民に近い「ちょっと先輩のママサポーター」を地域でネットワークすることと、小さな子どもがいる母親の社会参加創出を目的に西砂児童館と共催で開催した。今後、講座修了生の懇談会と自主企画の実施を支援していく。

日　時　平成 27 年 2 月 26 日(木)、3 月 5 日(木)、3 月 12 日(木)10:00-12:00
場　所　西砂児童館
講　師　日原みちる氏（株）マザートゥリー代表
内　容　脳のしくみ／こころと身体の発達／話の聴き方／コミュニケーションのとり方
　　こころと身体のしくみ　・・各回とも座学とワークによる講義
受講者　12 名

■体操支援員養成講座

身近な集会所や会館を利用した歩いて行ける体操教室は人気が高く､｢ちょっと外にでかける｣｢ご近所に顔見知りができる」好機となっている。高額な謝金を介さずに、体操リードが出来る市民のネットワーク化を図るため実施した。

日　時　平成 27 年 3 月 6 日(金)13:30-17:00
場　所　総合福祉センター
講　師　杉本浩康氏　立川介護老人保健施設わかば作業療法士
内　容　体操教室の取組と課題/高齢者の特性と健康体操の意義について/体操実技
受講者　16 名

■関係機関が主催する委員会等へのスタッフの参加

・立川市民生委員・児童委員協議会
・立川市子ども・若者自立支援ネットワーク会議
・立川市地域学習館運営協議会(錦学習館・幸学習館・西砂学習館)
・立川市地域公共交通会議
・立川市生涯学習推進審議会
・小地域ケア会議(はごろも・わかば・かみすな地域包括支援センター)
・市民活動支援協議会
・けやき台小学校避難所運営委員会
・西砂児童館地域交流会
・若葉児童館地域交流会
・幸児童館地域交流会
・栄福祉会運営委員会
・東京都社会福祉協議会大規模災害社協職員派遣検討プロジェクト
・東京都社会福祉協議会「暴力虐待を生まない社会づくり検討委員会」
・小地域福祉活動サミット in 首都大学

■視察・研修・取材の受け入れ

・東京都社会福祉協議会地域福祉コーディネーター実地研修
・高知市社会福祉協議会（包括支援センターと地域福祉コーディネーターの活動）
・安城市社会福祉協議会（包括支援センターと地域福祉コーディネーターの活動）
・牧之原市議会(立川の地域福祉活動)
・砺波市議会(地域福祉コーディネーター活動)
・東久留米市社会福祉審議会(地域福祉コーディネーター活動)
・NPO 法人「まちぽっと」(地域福祉コーディネーター活動)
・立教大学（地域福祉コーディネーターの活動と住民活動の取材）
・東洋大学　社会福祉学科教員(地域福祉の住民活動についての事例)
・東京家政大学　看護学部看護学科教員　（「地域での子育て支援の現状」について）
・慶応大学大学院生（地域活動全般について）

■講師等の派遣

・立川市民生委員・児童委員協議会総会(地域福祉コーディネーター活動)
・立川市自治会連合会研修会（「地域福祉の課題と社会福祉協議会のとりくみ」）
・こんぴら橋会館管理運営委員会講演会(孤立のないまちづくり)
・立正佼成会立川中央支部(地域福祉について)
・中里自治会役員会(社協活動について)
・西砂自治会(いざというときのご近所力)
・第二団地自治会役員会（地域福祉コーディネーターの活動について）

・睦会（地域活動・ボランティア活動について）
・若葉町福祉を考える会（地域福祉コーディネーターの活動について）
・チャンプルーの会（地域活動・ボランティア活動について）
・東洋大学社会福祉学科　加山ゼミ（地域福祉コーディネーターの活動）
・宮城県社会福祉協議会フォーラム（地域福祉コーディネーターの活動について）

(5)寄せられる相談とコーディネーター活動について

制度やサービスの狭間にあること、担当窓口がはっきりと構築されていないもの、異分野・異業種をつなぐ必要があるもの、住民の自治力の発揮が必要とされるものが、コーディネーターに寄せられる相談の特徴である。

狭義の福祉領域や既存のシステムにとらわれず、住民と生活課題を主体にしながら進めている。

ひとつの相談から地域活動の創出が出来ること、共に取り組むパートナーが「個」「グループ」「専門機関」「当事者」「営利」「非営利」など、多彩であることが大きな強みである。

また、3 地区とも地域包括支援センターに机を置いて協働しているのも大きな特徴である。協働内容は高齢者の介護予防的な取組みだけでなく、高齢者の家庭で子どもの問題や引きこもりの問題があれば適切な窓口につないだり、防災の取組みでは災害時要援護者への対応と位置づけて自治会活動への支援や介護保険事業者とのネットワークづくりを試みるなど、多くの点でそれぞれの資源と情報を持ち寄って協働している。

※相談件数の数え方は、1 つの相談を 1 件とせず、1 つの相談がある程度終了するまで時間をとって活動した回数としている。例えば 1 つの相談に関連して 3 回の訪問やコーディネートをした場合は 3 件となる。

《錦町・羽衣町地区》

	活動件数	連絡調整（件） ※各種団体の定例会出席、団体間やボランティアの引き合わせ等	普及啓発（件） ※地域福祉市民活動計画やコーディネーターの説明、介護予防、サロン普及啓発等	調査研究（件） ※自治会長や関係機関へのヒアリング、団体活動訪問、情報収集等
4月	89	47	7	6
5月	87	61	4	3
6月	85	43	6	6
7月	114	20	7	18
8月	114	29	18	13
9月	88	31	7	11
10月	110	51	6	11
11月	101	44	9	9
12月	71	29	5	6
1月	73	31	6	9
2月	79	41	2	11
3月	107	47	10	6
合計	1118	474	87	109

	各種相談（件）										月合計
	見守り/介護	生計	住居	虐待	家事	市民学習	子ども	ボランティア	その他	災害関係	
4月	22	4	1	0	0	1	3	18	25	0	74
5月	14	4	0	0	0	2	1	6	9	0	36
6月	11	2	0	1	1	2	0	5	9	0	31
7月	4	2	0	1	4	1	3	15	19	0	49
8月	8	0	0	0	0	2	6	10	20	2	48
9月	7	0	0	0	3	4	0	4	10	1	29
10月	7	0	0	0	1	3	1	16	10	1	39
11月	12	0	0	0	1	1	1	8	6	0	29
12月	0	2	0	0	0	3	0	17	6	0	28
1月	7	0	0	0	3	4	0	9	2	0	25
2月	7	0	0	0	1	0	1	2	1	0	12
3月	8	1	0	0	1	0	1	11	15	0	37
合計	107	15	1	2	15	23	17	121	132	4	437

《栄町･若葉町地区》

	活動件数	連絡調整（件） ※各種団体の定例会出席、団体間やボランティアの引き合わせ等	普及啓発（件） ※地域福祉市民活動計画やコーディネーターの説明、介護予防、サロン普及啓発等	調査研究（件） ※自治会長や関係機関へのヒアリング、団体活動訪問、情報収集等
4月	91	15	26	68
5月	80	21	16	40
6月	91	24	21	51
7月	94	24	27	54
8月	80	17	18	55
9月	92	14	12	50
10月	85	19	17	32
11月	98	15	10	30
12月	88	12	8	28
1月	95	10	15	43
2月	90	16	19	44
3月	92	18	12	29
合計	1076	205	201	524

	各種相談（件）										月合計
	見守り/介護	生計	住居	虐待	家事	市民学習	子ども	ボランティア	その他	災害関係	
4月	9	2	1	0	1	1	2	10	15	3	44
5月	3	0	1	0	0	0	2	4	8	10	28
6月	4	3	1	1	2	0	1	11	8	7	38
7月	6	0	1	0	1	1	2	4	14	2	31
8月	3	0	0	0	1	4	0	6	11	1	26
9月	4	0	1	0	1	0	0	3	14	6	29
10月	9	0	0	0	0	0	0	2	8	6	25
11月	3	0	0	0	0	1	2	5	18	4	33
12月	2	0	0	0	0	1	3	1	6	3	16
1月	3	0	0	0	0	2	1	10	7	1	24
2月	3	0	0	0	1	1	0	12	12	9	38
3月	5	1	1	0	0	0	1	3	7	10	28
合計	54	6	6	1	7	11	14	71	128	62	360

《上砂町・一番町・西砂町地区》

	活動件数	連絡調整（件） ※各種団体の定例会出席、団体間やボランティアの引き合わせ等	普及啓発（件） ※地域福祉市民活動計画やコーディネーターの説明、介護予防、サロン普及啓発等	調査研究（件） ※自治会長や関係機関へのヒアリング、団体活動訪問、情報収集等
4月	113	55	5	5
5月	101	59	12	7
6月	94	39	2	9
7月	113	61	7	8
8月	91	34	5	6
9月	115	66	7	11
10月	102	59	8	10
11月	111	59	5	12
12月	93	42	8	13
1月	75	26	7	13
2月	95	37	10	9
3月	86	43	4	3
合計	1189	580	80	106

	各種相談（件）										月合計
	見守り/介護	生計	住居	虐待	家事	市民学習	子ども	ボランティア	その他	災害関係	
4月	4	1	0	0	0	1	5	6	29	1	47
5月	2	0	0	0	0	0	4	2	20	2	30
6月	5	1	1	0	0	1	3	5	19	0	35
7月	6	2	0	0	0	2	8	3	18	1	40
8月	1	0	0	0	0	9	3	0	17	16	46
9月	1	0	0	1	0	2	2	1	19	6	32
10月	1	1	0	0	0	1	5	3	18	2	31
11月	2	3	0	0	0	1	7	2	20	2	37
12月	1	1	0	0	0	1	2	1	26	0	32
1月	0	0	2	0	1	2	0	3	16	4	26
2月	0	0	0	0	0	9	2	0	23	5	36
3月	0	0	0	0	0	1	2	0	15	0	18
合計	23	9	3	1	1	30	43	26	240	39	410

Ⅲ. センター運営の活動の柱

「運営委員会」　市民参画によるセンター運営

「協働の推進」　「市民力と連携のまちづくり」を前進させる

「地域づくり」　地域の課題を地域で解決するしくみづくり

「市民活動支援」　人と人とが参加し、つながりあう豊かな社会をつくる

1. 市民参画の運営委員会によるセンター運営

(1)運営委員会

市民によるセンター運営を進めていくため、センターのあるべき姿を探求しながら、3つの専門委員会である「協働支援センター部会」「地域活動支援センター部会」「市民活動支援部会（ボランティアセンター部会)」で、事業の企画・推進・評価を行った。委員会自身が具体的実践活動を展開しながら「市民活動とは何か」を捉えなおし、豊かにし続ける場となっている。

■運 営 委 員

20名　（氏名／選出時区分）　任期:平成25年6月19日～平成27年6月18日

運営委員長　宮 本 直 樹／社会福祉協議会理事

副 委 員 長　石 原 康 博／特定非営利活動法人団体

井上　英徳／企業

井村　良英／特定非営利活動法人団体

岩 間 直 人／ボランティア団体

海老塚　香／特定非営利活動法人団体

江 夏　　馨／ボランティア団体

小 川 和 美／関係行政機関

菊池　寛樹／企業

北 澤　　明／ボランティア団体

佐 藤 達 夫／市民

芝 田 達 矢／立川商工会議所

関根　義矢／市民

豊 泉　　裕／市民

菱沼　秀行／ボランティア活動推進団体

廣瀬　麻美／特定非営利活動法人団体

山 尾 桂 子／市民

山 本 晶 子／ボランティア団体

山 家 利 子／特定非営利活動法人団体
三島　雄介／企業

※平成 26 年 3 月までの任期
横溝　大樹／企業

〇運営委員会　開催回数：3 回

① 6/13(金)　平成 25 年度事業報告について
② 11/6(木)　平成 26 年度上半期事業報告について
市民活動センター運営委員研修会について
③ 3/11(水)　平成 27 年事業計画(案)について
市民活動センターたちかわ　事業のご案内について

〇協働支援センター部会　開催回数:10 回

社会貢献や地域活動等に参加したい人の為に、一歩踏み出せない人の為のきっかけや出会いの場つくりを検討し、実行する

① 4/15(火)　協働支援センター部会の紹介文について／　ブログについて
② 5/28(水)　ブログについて／　おもしろボランティア大学企画について
① 6/25(水)　ブログと夏ボラの連動について／　おもしろボランティア大学企画について
楽市案内人ボランティアについて
② 8/7(木)　おもしろボランティア大学振り返り／　楽市案内人ボランティアについて
③ 9/9(火)　楽市案内人ボランティアについて／　今後の企画について
④ 10/14(火)　楽市案内人ボランティアについて／　ブログについて
⑤ 11/20(木)　楽市案内人ボランティア振り返りについて
⑥ 1/14(水)　ボランティア活動支援の今後について
⑦ 2/19(木)　次につなげるボランティア（今後の取り組み）について
⑧ 3/19(木)　企画「座談会」について

〇地域活動支援センター部会　開催回数：11 回

今、取り組むべき地域福祉課題を選定し、その啓発や課題解決のための講座を企画実施する

① 4/18(金)　地域活動支援センター部会の案内文について／今後取り組むべき課題について
② 5/23(金)　「お父さんお帰りなさいパーティー」について
③ 6/27(金)　武蔵野市のオトパについて／八王子のオトパについて
④ 8/ 5(火)　実行委員会形式によるオトパ開催について
⑤ 9/29(月)　第一回オトパ実行委員会
⑥ 10/24(金)　第二回オトパ実行委員会／　八王子オトパ実行委員会の方による講師
⑦ 11/21(金)　第三回オトパ実行委員会／　名称:待っています地域の仲間と学びのパーティー
⑧ 12/12(金)　第四回（まちパ）実行委員会

⑨　1/16(金)　第五回（まちパ）実行委員会
⑩　2/ 9(月)　第六回（まちパ）実行委員会
　　2/16(月)　（まちパ）団体説明会
　　2/18(水)　（まちパ）団体説明会
⑪　3/28(土)　待っています地域の仲間と学びのパーティー

○市民活動支援部会（ボランティアセンター部会）　開催回数:12 回

市民活動センターの理念や捉えるべき社会問題を整理・検討した企画・仕組み作りに取り組む

①　4/2（水）　市民活動助成金制度について／　ヒューマンライブラリーについて
②　5/8（木）　部会の名称について／　市民活動助成金制度について
　　市民活動支援部会で取り組むこと
③　6/3（火）　ヒューマンライブラリーについて／　市民活動助成金制度について
④　7/17（木）　ヒューマンライブラリーについて／　市民活動助成金制度について
⑤　9/19（木）　ヒューマンライブラリーについて／　市民活動助成金制度について
⑥　10/21（火）ヒューマンライブラリーについて／　市民活動助成金制度について
⑦　11/14（金）ヒューマンライブラリーについて／　市民活動助成金制度について
　　団体登録制度について
⑧　12/3（水）　ヒューマンライブラリーについて／　団体登録制度について
　　平成 27 年度市民活動助成金審査会について
⑨　1/20（火）　ヒューマンライブラリーの振返り／　団体登録制度について
⑩　2/23（月）　第 1 回　平成 27 年度市民活動助成金審査会
⑪　3/ 5（木）　第 2 回　平成 27 年度市民活動助成金審査会
⑫　3/ 9（月）　運営委員会報告について／　団体登録制度について

2. 協働の推進

(1)市民と行政との協働の推進

■たまがわ･みらいパーク企画運営委員会への支援

平成 16 年 4 月に廃校となった旧立川市立多摩川小学校について､市民の声を反映した跡地の活用方法の実現を目的に市民委員会が発足し、提言を平成 18 年 1 月に市長へ提出した。

平成 18 年 4 月からは旧立川市立多摩川小学校運営協議会が発足。センターは、基本コンセプトの具現化や市民と行政との新しい協働型の運営、運営体制、施設・設備管理・プログラム実施に関するルールをまとめていくための支援を担った。

平成 19 年度から、市民会議に関わった市民を中心に「たまがわ・みらいパーク企画運営委員会」が立ち上がり、プログラムの企画・実施などの運営を行なっている。センターは市民、行政と協働しながら施設を運営していくために、企画会議への参加などを通じて側面的な支援を行なった。

地域の活性化を行うため、平成 26 年 1 月から月 1 回フリーマーケットや朝市開催時に障害者団体が出店できるよう、企画運営委員会へ団体の紹介を行い継続的に出店、企画運営委員会との交流につなげた。

■たちかわ楽市

国営昭和記念公園みどりの文化ゾーンで開催される『たちかわ楽市』の企画運営委員会に所属して、市民活動団体のＰＲや財源確保の場を提供するために、団体出店の取りまとめを行った。

日　　時　①たちかわ楽市　平成 26 年 11 月 8 日(土)・11 月 9 日(日)
場　　所　国営昭和記念公園みどりの文化ゾーン
参加団体　市民活動センターたちかわ登録団体
　　出展　22 団体

■立川市計画策定のための会議

平成 27 年度から施行される立川市の様々な計画策定のための会議に関係団体として出席し、市民と行政によるまちづくりを進めるために積極的に関与した。

1) 第 3 次地域福祉計画策定検討委員会（および同作業部会）への参画
2) 第 2 次地域防災計画策定市民会議　への参画

⑵関係機関・団体との協働事業の実施や支援

関係機関・団体の定例会への参加や協働事業などを通して地域課題の解決を図った。

①立川市民生委員・児童委員協議会
・各地区定例会および管外研修への参加
②地域包括支援センターとの連携
・立川市地域ケア会議
・立川市小地域ケア会議
・立川市地域包括支援センター介護予防業務連絡会
・立川市地域包括支援センター事務連絡会
・立川市（高齢者）虐待防止ネットワーク
③立川市子ども支援ネットワーク
・立川市子ども支援ネットワーク実務担当者会議
・立川市子ども支援ネットワーク各地区定例会議
④立川市地域学習館運営協議会
・市内 6 か所の地域学習館運営協議会定例会出席
・学習館事業の実施支援（フリースペース等）
⑤タチカワコミュニティビジネスプロジェクト
⑥立川市人権学習事業実行委員会
・人権アニメ映画上映会（明日の希望）
・フリートークライブショー（TV 番組「バリバラ」出演者登壇）

⑦福祉ホットライン検討委員会
⑧災害対策ネットワーク会議
⑨立川市災害ボランティアネット
・総会・定例会
・災害ボランティアリーダー養成講座等
⑩立川市地域猫活動団体連絡会
⑪たちかわ創業応援プロジェクト
⑫子ども若者支援ネットワーク会議

■障がいのある人もない人も暮らしやすい立川を考える会

立川における「障がい者差別禁止条例」づくりに向け、他の地域で制定している同様の条例を分析し、分類の仕方や項目設定の視点など、定例会の中で学んでいきました。

それと並行し、下記の構成団体等を通じて行ったアンケート調査について、分類と分析を行った。その上で、まだ十分にアンケートに答えられていないと思われる団体や個人に、ヒアリングを行っていくことを検討しました。

障害についての理解を深め、障害ゆえの差別とは何かを市民と共に考え啓発する学習活動と、地域での懇談会などの開催を続けている。

＜構成団体＞H27. 1 末現在

NPO 法人自立生活センター・立川／立川市手をつなぐ親の会／
立川市精神障害者家族の会（麦の会）／立川市肢体不自由児者父母の会・たつのこ／
在宅障害者の保障を考える会／中途失聴・難聴者「つばさの会」立川／
「今を生きる！」難病の会立川／一般社団法人 animo／社会福祉法人幹福祉会／
ヘルプ協会たちかわ／NPO 法人多摩在宅支援センター円／高次脳機能障害の会・スマイル立川／社会福祉法人すみれ会／NPO 法人立川マック／NPO 法人ゆるら／NPO 法人こらそん

①交流会「地域懇談会交流会（情報交換会）」
日　　時　　平成 26 年 7 月 15 日(火)
場　　所　　立川市総合福祉センター　ランチルーム
内　　容　　地域福祉コーディネーター配置と今後の地域福祉の展望について
講　　演　　立川市社会福祉協議会　近藤事務局長
参加者数　　40 人

②講演会「講演会」
日　　時　　平成 26 年 8 月 23 日(土)
場　　所　　立川市役所　101 会議室
内　　容　　障害者権利条約で社会が変わる！
誰もが暮らしやすい立川づくり「条例」制定に向けて　連続企画 第２弾
～障がいがあっても高齢になっても、当たり前に地域で暮らしたい～

講　　演　　藤井 克徳 氏

（日本障害フォーラム（ＪＤＦ）幹事会議長／内閣府障害者政策委員会委員長代理）

参加者数　　80 人

(3)企業等との協働事業の実施や企業の社会貢献活動の支援

■ふれあいミュージックフェスティバル 2014

東京ガス㈱多摩支店、国立音楽大学との協働により平成 26 年度で第 22 回目の開催を迎えた。

この催しは障害のある方や、日頃クラシックコンサートに接しにくい方でも安心して参加できる取り組みとして開催している。当日の運営に多くのボランティアに協力いただき、車椅子・ストレッチャーを使用されている方の会場誘導などを行っている。

例年楽しみにされている市民が多く、当日アンケートに寄せられる声からも満足度は高い。また市内福祉施設で、当日の来場が難しい方へ国立音楽大学学生による出張コンサートを実施し好評を得た。

開 催 日　　平成 26 年 9 月 27 日(土)

会　　場　　国立音楽大学講堂・大ホール

内　　容　　ハンドベル演奏、オルガン独奏、金管バンド・アンサンブル　他

来 場 者　　817 名

入 場 料　　無料

ボランティア　　会場設営、交通誘導、募金呼びかけなど、３５名のボランティアの方にご協力いただいた。また、車イス介助の仕事として、若者支援 NPO 法人「育て上げ」ネットの方６名にもご協力いただいた。開始合当日のチャリティ募金に 30,740 円が集まった。

アフターコンサート

① 10/11(土)　介護老人福祉施設フェローホームズ　/　ハープ演奏

② 10/18(土)　こらそん　/　クラリネット四重奏

③ 10/25(土)　介護老人保健施設　至誠キートスホーム/　ユーフォニアムとピアノ演奏

④ 11/ 1(土)　介護老人福祉施設　敬愛ホーム　/　フルート四重奏

⑤ 11/22(土)　地域デイサービス　テイクオフ　/　クラリネット四重奏

⑥ 11/29(土)　介護老人保健施設　わかば　/　ユーフォニアムとピアノ演奏

特別協賛　　東京ガス株式会社　東京ガスライフバル多摩中央株式会社

後　　援　　立川市、国立音楽大学、(公財)立川市地域文化振興財団、読売新聞東京本社立川支局

(4)防災・減災活動の取り組み

■立川市総合防災訓練への参加

立川市社会福祉協議会では、立川市との協定により、発災時に災害ボランティアセンターの設置運営を行うことになっている。しかし、その機能や役割が十分に市民に周知されていないという課題がある。そのため、立川市で毎年実施している総合防災訓練のメイン会場にて『立川市災害ボラ

ンティアネット（以下、立災ボ)』とも協働し、災害ボランティアセンターに関する『啓発・パネル展示』および『液晶プロジェクター壁写し大画面による『大震災当時の情報等の投映』を実施し、来場者に災害時の備えや災害ボランティアセンターに関する理解をしてもらうことで、発災時にその機能が生かされるよう周知を図った。隣接したブースでは協働した立災ボによる「防災食料備蓄」の展示等も在宅避難への備えについても啓発した。

また、昨年度に引き続き、総合防災訓練当日に立川市職員によって行われる、避難所 30 か所を結ぶ「防災無線訓練」に、総合福祉センターとして参加訓練を行った。昨年度は本庁舎との交信であったが、今年度は総合防災メイン会場との無線訓練だったため、音声が一時的に不明瞭になる場面があるなどを体感し、災害時を想定した、より実践的な訓練シミュレーションを重ねている。

日　時：平成 26 年 9 月 7 日（日）　9：00～12：00

場　所：柏小学校

※当日はメイン会場内のスタンプラリーの効果から、約 743 名の市民がブースに立ち寄った。

■企業の CSR 活動や社員研修への協力

企業から寄せられる「寄附がしたい」「CSR(企業の社会的責任)活動がしたい」「社会貢献できる人材育成プログラムを実施したい」といったご相談を受け、実施のための支援を行った。

○CSR 活動（寄付や地域貢献、ボランティア活動等）のご相談

・大和証券、株式会社アドパック、ザ・ボディーショップ、株式会社プルデンシャル生命保険、株式会社ツクイ、株式会社アイオン

○社員研修（含むボランティア活動プログラム）への協力

・三菱東京 UFJ 銀行

内　　容　　市内 9 ヶ所の施設・団体で 40 名の新入社員がボランティア体験

日　　時　　平成 26 年 5 月 20 日(火)・5 月 22 日(木) および 5 月 23(金)振り返り

協力団体　　フェローホームズ、やわらぎホーム・西立川、ワークセンターまことくらぶ、高齢社会の食と職を考えるチャンプルーの会、花音、「育て上げ」ネット、星槎国際高等学校立川学習センター、立川市社会福祉協議会高齢者デイサービスセンター、立川市社会福祉協議会生活介護支援事業所

・多摩信用金庫

内　　容　　市内 11 ヶ所の施設・団体で 100 名の新入社員がボランティア体験

日　　時　　①平成 26 年 7 月 9 日(水)・7 月 10 日(木)・7 月 11 日（金）
②平成 26 年 7 月 14 日(月)・7 月 15 日（火)・7 月 16 日(水)
③平成 26 年 7 月 17 日（木)・7 月 18 日（金)・7 月 22 日(火)

協力団体　　フェローデイサービスセンター、至誠特別養護老人ホーム、至誠キートスホーム、マチエール花音、幸児童館、西立川児童館、しらゆり福祉作業所、立川福祉作業所、高齢社会の食と職を考えるチャンプルーの会、立川市社会福祉協議会高齢者デイサービス、立川市社会福祉協議会生活介護支援事業所、栄福祉作業所

(5)各種企画委員会やプログラムへのスタッフ派遣

■関係機関が主催する委員会等へのセンタースタッフの参加

関係団体や行政機関などが主催する各種委員会、研究会にセンタースタッフ自身が参画することで、新たなニーズや情報を掴み、ネットワークづくりをする機会とした。

・立川市人権学習事業実行委員会（再掲）
・立川市文化芸術のまちづくり協議会
・幸児童館運営委員会
・「楽市」企画運営委員会（再掲）
・世界ふれあい祭実行委員会
・東京ボランティア・市民活動センター　センター長会議
・東京ボランティア・市民活動センター　事務局連絡会議
・北多摩西部ブロックボランティア担当者会議
・夏体験ボランティア　市区町村　担当者連絡会議
・災害ボランティア担当者連絡会議
・NPO 担当者連絡会議
・創業応援プロジェクト
・東京都アクションプラン推進会議

■センタースタッフによる講師等の派遣

関係団体が実施する講座、講演会等にスタッフを派遣し、協働した。

・三菱東京 UFJ 銀行新任社員研修　（再掲）
・多摩信用金庫新人職員研修　（再掲）
・ボランティア市民活動センター長会議
・砂川学習館運営協議会
・第 1 地区小地域ケア会議
・無印会　学習会
・第 5 地区小地域ケア会議
・北多摩西部ブロック職員連絡会研修
・プチトマトの会
・フラワーセラピー協会
・第七小学校
・立正佼成会福祉学習会

(6)小中学校の介助員事業の充実とコーディネート

立川市が配置する通常学級における小中学校介助員について、高齢者や障害者のヘルパー派遣事業所から職員が配置されるようになって 4 年が経過している。センターは新制度導入より、立川市教育委員会、学校、事業所間の、教育と福祉という異なった分野のコーディネートを行ってきた。

本年度は、中学校への進学をする生徒が多かったが、スキー移動教室等の宿泊を伴う行事などにおける人材の確保等、事業所が直面する課題に向き合い、介助員制度でどこまで対応可能かといった丁寧な話し合いや課題出しに努め、学校、教育委員会とともに、体制の整備・充実を図ってきている。

また、介助員の資質向上について、教育委員会と共に検討を重ね、介助員全体研修では同内容の研修を（水）（土）の2回に分けて実施するなど参加率にも配慮した。今後も統合教育の実現に向けて進めていきたい。

■介助員にかかる、市と事業者、学校間のコーディネート

・対象校／9校

第一小学校、第三小学校、第五小学校、西砂小学校、大山小学校、上砂川小学校、
第三中学校、第五中学校、第八中学校

・対象児童・生徒／のべ16名

・事業者数／6事業者　（※下記表記は「法人名」（事業所名）。）

「特定非営利活動法人ケア・センターやわらぎ」（ケア・センターやわらぎ・立川）
「社会福祉法人にんじんの会」（ケアステーションにんじん・立川）
「社会福祉法人にんじんの会」（ケアステーションにんじん・玉川上水）
「医療法人社団東京石心会」　（立川介護老人保健施設わかば）
「一般社団法人animo」　　（animo（アニモ））
「社会福祉法人立川市社会福祉協議会」（立川市社会福祉協議会ホームヘルプサービス）

〇会議等の開催

・事業者連絡会議
・教育委員会等との会議・打合せ
・学校、保護者、事業者等との会議・打合せ・面談
・介助員全体研修　11月12日（水）、29日（土）／　2月18日（水）、21日（土）

（※　その他、車いす昇降機訓練など、事業所個別研修等への開催調整、立会い等実施）

3. 地域づくり

(1)地域懇談会の開催

■町単位での取り組み

○錦町・羽衣町

○栄町・若葉町

○上砂町・一番町・西砂町

「2. 平成 26 年度の地域福祉コーディネーターの取組み」に前掲。

○幸町

	日時・会場	主な協議内容
1	平成 26 年 4 月 7 日(月) 幸学習館　　参加者 17 名	・H25 年度の振り返り ・今後の取り組みについて
2	平成 26 年 5 月 13 日(火) 幸学習館　　参加者 14 名	・夜回り(1 丁目)について ・日帰りバス研修について
3	平成 26 年 6 月 2 日(月) 幸学習館　　参加者 15 名	・幸町 1 丁目を夜回り
4	平成 26 年 7 月 7 日(月) 幸学習館　　参加者 14 名	・幸町 1 丁目夜回り振り返り ・日帰りバス研修について ・今後の取り組みについて
5	平成 26 年 8 月 4 日(月) 幸学習館　　参加者 16 名	・日帰りバス研修について ・自転車安全教室（仮）について →「危ないところや疑問点」を共有
6	平成 26 年 9 月 1 日(月) 幸学習館　　参加者 16 名	・自転車安全教室（仮）について
7	平成 26 年 9 月 18 日(木) 視察船・そなエリア　　参加者 39 名	日帰りバス研修会
8	平成 26 年 10 月 6 日(月)参加者 20 名	・日帰りバス研修会　振り返り ・自転車安全教室（仮）について
9	平成 26 年 11 月 10 日(月) 幸学習館　　参加者 17 名	・自転車安全教室（仮）について ・「タッチ祭」への参加について
10	平成 26 年 11 月 16 日(土) 幸児童館　　参加者 10 名	・幸児童館「タッチ祭」
11	平成 26 年 11 月 21 日(金) 幸児童館　　参加者 22 名	・自転車ルールの疑問あれこ
12	平成 26 年 12 月 1 日(月) 幸学習館　　参加者 23 名	・さいわい町地域懇談会　忘年会
13	平成 27 年 2 月 2 日(月)	・「自転車ルールの疑問あれこれ」振り返り

	幸学習館　　参加者 17 名	・幸児童館「タッチ祭」　振り返り ・次年度の取り組みについて意見交換
14	平成 27 年 3 月 2 日(月) 幸学習館　参加者 19 名	・次年度の取り組みについて意見交換

■地区単位での取り組み

このほか、「障がいのある人もない人も暮らしやすい立川を考える会」（前掲）と協働して、地区単位での「考える会地域懇談会」を行った。（各地区、生活六圏域で、のべ 55 回開催）

1）1 地区（富士見町、柴崎町）／6 回　参加 45 名
2）2 地区（錦町、羽衣町）／14 回　参加 122 名
3）3 地区（曙町、高松町、緑町）／6 回　参加 64 名
4）4 地区（栄町、若葉町）／11 回　参加 204 名
5）5 地区（幸町、柏町、泉町、砂川町）／7 回　参加 139 名
6）6 地区（上砂町、一番町、西砂町）／9 回　参加者 114 名

(2)グッドネイバー運動推進団体、地域関係団体との連携

市民が地域の中で、共に学び、参加し、支え合うまちづくりをすすめる目的で、市内 4 ヵ所（栄町、若葉町、柴崎町、西砂町・一番町）にグッドネイバー運動推進団体を指定し、活動費の助成や情報交換を行っている。平成 16 年に行なった本会の地域福祉市民活動計画及び立川市の地域福祉計画の策定時は、この 4 地区で地域懇談会を開催し、両計画に反映させた。

平成 19 年度からは栄町・若葉町、平成 22 年度から上砂町・西砂町・一番町を対象に地域福祉コーディネーターが配置され、連携を図りながら地域活動を展開している。

西砂町・一番町では松中小学校内ふれあい交流室での子どもの見守り活動が定着し、地域の中で大きな力となっている。また、柴崎町では学校と地域のつなぎ役として子どもの居場所づくりだけではなく、生活支援講座の中で、地域課題を共に考え、解決できるような機能も果たしている。本センターとしては、地域での協議の場をつくり出すような役割を引き続き果たしていくことも期待している。

(3)住民グループの組織化支援

■支えあいサロンの推進

市民の孤立を防ぎ、身近な地域の中で緩やかなつながりを継続できる場として、隣近所単位のたまり場活動である「支えあいサロン」の運営を支援している。

登録グループは、子育て中の人が多く集うサロンと、高齢者中心のサロンとに分けることができる。開催されているサロンの中には、防災活動やサロン開催時以外の時間帯での見守り活動につなげる取り組みをしているところもあり、地域への波及効果の高さを改めて認識できた。今年度は、茶話会・体操が子育てサロン、高齢者サロンともに登録があり、登録サロン数は昨年度に比べ 10

団体増加した。高齢社会における重要な取り組みの一つであるので、今後も新たな人材発掘にも力を入れ、一つでも多くサロンが立ち上がるよう支援していきたい。

○登録サロン数　130 ヵ所

・高齢者サロン：99 ヵ所

・子育てサロン：29 ヵ所

・その他サロン：2 ヵ所

(4)地域住民との連携による学校を核とした福祉学習の推進

市内の小中学校から依頼を受けて、総合的な学習の時間や一般科目の中で、福祉教育、市民学習に関する、学校と市民のコーディネートを行った。この取り組みは、NPO 法人自立生活センター・立川、障害当事者、地域の高齢者、市民活動団体の活動者、商店街店主、行政職員など、さまざまな市民と協働して進めている。

数年来の取り組みの中では、肯定的な変化として地域の支援者が着実に市民学習を支援する力をつけていることが挙げられる。それは生徒たちとのやり取りが向上したということに留まらず、学校との打合せにおいてプログラムを協働で作成する力や、コーディネートをする力も身に付いているということである。プログラムの内容についても、学校の実情に合わせて臨機応変に作成してきたため、経験が蓄積されている。

■学校への学習支援や出前講座の実施（相談のみも含む）

学校におけるプログラム実施の中で、地域の課題にも触れることが多くある。と同時に、学校の抱える悩みは、地域の状況を反映しているともいえる。学校での取り組みは、地域の教育力を高める機会でもあると捉え、単にプログラム提供に留まらず、住民を視野に入れて活動をしてきた。今後は、立川市社会福祉協議会の使命「住民主体による福祉コミュニティづくり」を推進していくため、地域の支援者が主体となる市民学習支援のコーディネートを展開していく。

■立川市教員研修への協力

立川市教育委員会が主催する福祉教育をテーマにした参加型・体験型学習の研修に協力した。平成 12 年から、地域の障害のある方々に協力をいただきながら実施してきた。実施方法も定着してきたことから、NPO 法人自立生活センター・立川が中心となり、教員の資質向上に寄与した。

日　　時　　平成 26 年 7 月 29 日(火)　9 時 30 分～15 時 30 分

場　　所　　立川市役所

参 加 者　　立川市の教員 16 人

主　　催　　立川市教育委員会・NPO 法人自立生活センター・立川

■都立高校の奉仕体験活動の支援

都立高校において導入された奉仕体験活動への具体的なプログラム作成の協力や、社会資源の情報提供を市内の 3 校（5 課程）に対して行なっている。平成 19 年度に実施されてから、学校と協力

者や市民活動団体とのつながりができ、より効果的なプログラムづくりができている。26 年度は、地域猫をテーマに動物愛護や地域団体との交流、防災の街歩き、高校カフェなどの新しい取り組みも実施された。

(5)地域防災活動等への住民参加の促進とネットワークづくりの推進

地域での防災・防犯に関する懇談会やまち歩きなどを開催したほか、立川市災害ボランティアネットと連携して、防災活動のネットワークづくりを推進した。また、防災モデル地区事業や、小学校を拠点とした町単位での地域防災訓練などへ参画し、住民参加を促進した。

■懇談会、まち歩き等の開催、協力

・自治会などでの防災学習会の開催
・立川市防災モデル地区推進事業への参画
・地域防災訓練への参画（前掲）

■立川市災害ボランティアネットとの連携

平成 21 年より、被災地を支援した経験のある市民を中心に、立川市及び首都圏での震災発生に備えたネットワークづくりを目的とし発足された、立川市災害ボランティアネットと連携して、地域懇談会での災害に備える啓発活動や、発災時の災害ボランティアセンター設置・運営マニュアル策定への協力、災害ボランティアリーダー養成、定例会の開催など、本会と連携した活動を行っている。

＜災害ボランティアリーダー養成講座等の開催＞

1) 災害ボランティアリーダー養成講座／7 回

a)基調講演　平成 26 年 6 月 14 日
b) 救護１（普通救命技能資格）講習　平成 26 年 6 月 28 日
c) 救護２（搬送訓練)、救護３（スタートトリアージ）訓練　平成 26 年 7 月 12 日
d) 在宅避難を想定した食の備え、防災倉庫備蓄品チェックと習熟訓練　平成 26 年 7 月 26 日
e) 避難所立ち上げ運営の実際、災害ボランティアセンター立上げ訓練　平成 26 年 9 月 6 日
f) 防災まち歩きとＤＩＧ図上訓練　平成 26 年 9 月 20 日
g)要援護者を守る～講座総まとめ　平成 26 年 10 月 4 日

2)フォローアップ等／2 回

h)養成講座修了生フォローアップ交流会　平成 26 年 11 月 30 日
i)養成講座修了生フォローアップの集い　平成 27 年 3 月 7 日

3)講習会／2 回

j）)男女共同参画～防災のつどい　平成 26 年 10 月 18 日
k)男女共同参画～ステップアップ講習会　平成 27 年 3 月 1 日

(6)震災避難者の孤立化防止事業

震災避難者の方に定期的に電話かけなどを行い、その中から支援が必要と思われるケースがあれば、市民活動センターたちかわの地区担当者や地域包括支援センター、行政、民生委員など、関係機関と連携し個々の状況に応じた、支援を行っている。震災後、4年が経過し、借り上げ住宅など、避難者支援はいつまで続くのかという相談と共に、高齢者世帯、子育て世代など、個々のライフステージに合わせた生活課題を相談される方が増えている。また、特に今年度は東京都からヒアリングを受けたことをきっかけに話し合い、戸別訪問のために配置された相談員と地域福祉コーディネーターやセンター職員も協力し、戸別の相談支援に力をいれて実施した。

避難者数 71 世帯 127 名（平成 27 年 3 月末時点）

(昨年同時期：78 世帯 149 名)

1)内、都営大山団地（45 世帯 84 名）

2)市営住宅、その他民間住宅等（26 世帯 43 名）

3)戸別訪問実施 75 世帯都営「上砂町一丁目アパート」(通称：大山団地)

最も避難者の多い市内都営団地自治会（大山団地）を中心に組織されている、「立川・東日本大震災避難者を支援する会」には、社協から対応業務を委託しサロン等をおこなっている。

また、市からは個人情報審査会を経て、避難者の情報提供を受け市内の避難者の状況把握を行っている。

4. 市民活動支援

(1)ボランティア情報提供希望者および登録団体との連携

■ボランティア情報希望者

ボランティア情報提供希望者には、個別に対応し、希望に合わせて具体的な情報を引き出し、活動につなげるように努めている。

■登録団体

主に立川を拠点として活動している NPO 法人やボランティアグループなど公益性のある開かれた活動を行う非営利の市民活動団体を対象にした登録制度を設け、情報交換を密にすることで連携を深めた。市民活動団体の活きた情報を広く市民に公開するため、ホームページ「市民活動 WEB たちかわ」の運営や「市民活動センター★たちかわ通信」を発行した。また、助成金の情報提供、機材の貸出し、市民活動団体マネジメント講座の開催など、市民活動団体それぞれの活動がより充実するための連携を図っている。2 年ごとの更新の時期に更新されなかった団体があったため登録数は減少している。

○登録団体　　129 グループ

・障害のある人や高齢者、医療に関するグループ　39 グループ

・こどもや子育てに関するグループ　　26 グルー)

・環境に関するグループ　　9 グループ

・文化・スポーツに関するグループ　　24 グループ
・多文化共生に関するグループ　　4 グループ
・地域づくり・まちづくりに関するグループ　　23 グループ
・いろいろな相談事業に関するグループ　　4 グループ

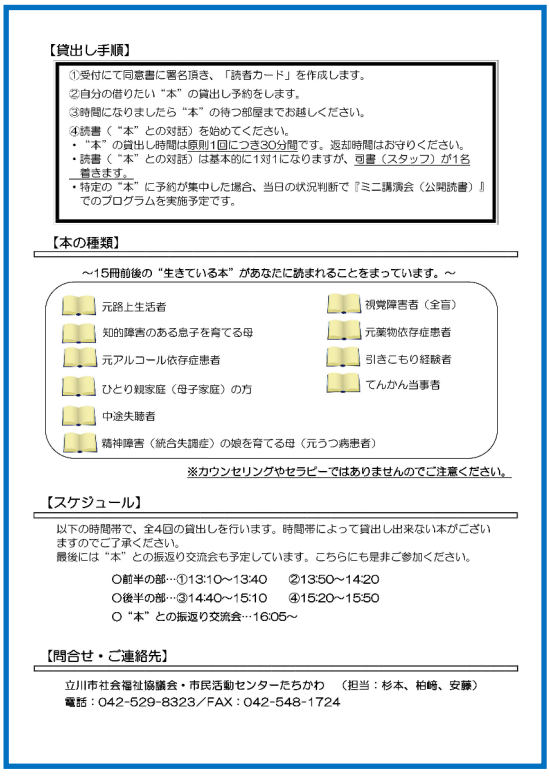
（2）市民活動を促進する啓発イベント等の開催 【NEW】

部会で、いま必要とされる企画について討議した結果を活かし、市民の誰もが気軽にボランティア活動、市民活動に関われるきっかけづくりや参加につながる新たなスタイルの企画や啓発イベントを実施した。

■ヒューマンライブラリー@立川（生きた本との対話）

あらゆるマイノリティの方が生きづらさを抱えることなく、地域で暮らしていけるよう、共生社会推進のための啓発イベントとして、個人や登録団体と協働し、開催した。

「ヒューマンライブラリー@立川～生きた本との対話～」
平成 26 年 12 月 13 日開催　参加者　61 名
1）協力者（本の役）
a）市民活動センター登録団体 9 団体　11 名
b）個人協力者　3 名
2）協力機関：駒澤大学文学部社会学科　坪井ゼミ



■待っています。地域の仲間と学びのパーティー

市民と地域の活動団体とをつなぐイベントとして定年前後の方を中心とした前期高齢者とその予備軍をターゲットとした企画の開催

「待っています　地域の仲間と学びのパーティー」（通称：まちパ）

日　時：　平成 27 年 3 月 28 日開催

会　場：　たましん RISURU ホール 地下展示室、サブホール

参　加：　一般参加者　72 名

定年退職前後の男性、女性、夫婦参加もあり

1）市民活動団体やサークル等の参加者

（展示ブースで説明する役）40 団体　のべ 94 名

2）協力企業、事業者（協賛団体）：9 団体

3）広報協力企業等：3 社

4）冊子作成協力：1 団体（市内福祉作業所）

内　容：

1．市民活動団体やサークル等の紹介

①各団体紹介ブースに参加者を案内。（ツアー形式）

②参加者が関心ある団体紹介ブースを自由見学。

（自由行動）

2．活動団体の紹介を兼ねた企画（音楽演奏）

3．軽食を交えた参加者と団体との交流会

その他：

団体の活動紹介が掲載された「まちパ冊子」を作成。

当日配布含め、500 部作成。

（3）ボランティア活動の促進

■おもしろボランティア大学

多様な市民活動を行なう団体を講師に迎えたり、地域イベントのスタッフとして参加したりして、市民活動に触れるきっかけをつくるとともに、ボランティア活動のきっかけづくりや登録団体の活動紹介、その場に集まった参加者の学びあいの機会をつくった。

○第35回おもしろボランティア大学

開催日　　平成26年7月22日（火）

会　場　　総合福祉センター

参加者　　7名

テーマ　　「総福探検！ここから始まるボランティア」

講　師　　市民活動センターたちかわ運営委員、市民活動センターたちかわスタッフ

■夏！体験ボランティア 2014

①夏！体験ボランティア（ボランティア体験プログラム）

市民のボランティア活動のきっかけづくりを目的として、夏休み期間を中心に市内の福祉施設や市民活動団体と連携をとりながら実施した。

福祉分野以外の団体からも体験プログラムの提供を得ており、プログラム数 89 と充実している。

参加者の傾向として、高校生の参加者が全体の半数を占める。また、ターミナル駅として利用しやすいためであるか、市外在住者の参加も多く、近隣の学生層は市民活動センターたちかわのホームページから情報を得ている。小学生向けのプログラムがまだ少ないため、今後は、受け入れ施設と検討していきたい。

○開催時期　　7 月～8 月を中心とした夏期

○活動メニュー　市内の受入れ施設・団体等　89 プログラム　（昨年度は 84）

○参 加 者　　101 名　（昨年度 139 名）

②「ボランティア活動参加者の集まり」座談会の実施

開催日　　平成27年3月31日(火)

会　場　　総合福祉センター

参加者　　15名

■楽市案内人ボランティア

「たちかわ楽市2014」では、これまでの会場案内のプログラムと、障害のある方の買い物等の付き添いも実施した。今後も継続して実施予定。

○たちかわ楽市案内人ボランティア 2014

開催日　　平成 26 年 11 月 8 日（土）

会　場　　たちかわ楽市 2014（昭和記念公園　緑の文化ゾーン）

参加者　　10 名

テーマ　　「楽市を 109 倍楽しむ楽市案内人ボランティア」

講　師　　市民活動センターたちかわ運営委員、市民活動センターたちかわスタッフ

（4）市民活動情報の受発信機能強化

■ボランティア・市民活動情報コーナーの設置

総合福祉センター2 階に、自由に情報や書籍を閲覧したり、チラシなどを入手できるボランティア・市民活動情報コーナーを設置している。また、情報検索ができるコーナー「フリースポット」も運営し、市民が気軽に情報を入手できるようにしている。活動分野・内容・形態ともに多様な団体が情報を寄せてくださるようになっている。また、直近のイベント等の情報を集めたテーブルをエレベーター前に設置して、ほぼ１～２週間で内容が次々と更新されるコーナーを設けるなどした。

豊富な情報収集と同時に、必要としている情報を絞り込んだり、新たな情報を引き出したりすることもセンターの役割である。

○情報数　　約 1,500（まちづくり/保健・医療・福祉/多文化共生・海外支援/生涯学習/こども/環境・動物保護/災害援護活動/文化・芸術・スポーツ/人権/NPO/ボランティア募集/職員募集/資格取得/組織マネジメント/ファシリテーションなどのテーマに関する情報）

■市民活動センターホームページ「市民活動 WEB たちかわ」の運営

インターネット上にてボランティアの募集情報や市民活動団体のイベント情報などを配信。登録した市民活動団体については、団体自身のパソコンで情報配信できる機能を活用できるようにしている。

団体からの情報発信が増加すると同時に、ホームページの閲覧をきっかけにセンターへの問い合わせや、活動への参加につながること等が年々増加している。

■市民活動センター情報紙「市民活動センター★たちかわ通信」

ボランティアや NPO に関する取材記事、情報を毎月 1 回、情報紙として発行した。

市民が自由に手にできるよう、図書館、学習館などに設置すると同時に、市内協力店にも設置しているほか、関係機関、市民活動団体などには直接送付している。毎月、協働推進課を通じ、砂川地区の「みの～れ立川」にも設置されている。また、読売新聞立川北部サービスセンターの協力により、栄町、高松町、曙町の一部においては新聞折り込みにより配布している。富士見町地区の自治会に関しては、自治会ごとに回覧していただいている。

年 5 回（5 月、7 月、10 月、12 月、2 月）は、立川市社会福祉協議会の機関紙である「あいあい通信」内に情報を掲載して市内全戸配布している。団体からは、開催する講座やボランティア募集のお問い合わせをいただいたという声が寄せられた。

平成 23 年度より、立川市内の小中学校に年 3 回「市民活動センター★たちかわ通信学校便」を発行し、総合学習や夏！体験ボランティア、ふれあいミュージックフェスティバルなど、社会福祉協議会の活動を紹介した。

・市民活動センター★たちかわ通信　　6,100 部×7 回　計　42,700 部
・市民活動センター★たちかわ通信学校便　13,950 部×3 回　計　41,850 部
・あいあい通信に情報掲載　　80,000 部×5 回　計 400,000 部

■市民活動団体リスト

市民活動センターたちかわ登録団体の紹介冊子「市民活動センターたちかわ登録グループ紹介 BOOK」を 2 年更新で発行している。

○「市民活動センターたちかわ登録グループ紹介 BOOK」　　掲載団体　　129 団体

(5)市民活動向け講座・研修会等の開催

■NPO 法人設立ガイダンス

NPO 法の解説・法人化の意義・設立に向けた手順や事務についての内容で、年 3 回、平日夜間に開催。参加団体の活動分野は多岐にわたる。「NPO とは何か」を入り口に多様なグループ運営の相談・質問が持ちかけられる場となっている。

ガイダンスだけでは「日程が合わない」「個別に解説してほしい」という声も多く、適宜、窓口でも相談を受け付けている。

参加者延べ人数　　28 名

多い質問　　「NPO 法人と他法人の違いについて」「役員・社員について」

	開催日時	参加者数	参加者の活動分野
①	平成 26 年 7 月 25 日(金)	13 名	森林保護団体、スポーツ団体、市民活動団体
②	平成 26 年 11 月 26 日(水)	6 名	市民活動団体、行政
③	平成 27 年 2 月 13 日(金)	9 名	障害者支援、介護支援事業、企業

■NPO 法人・非営利団体のための運営実務あれこれ講座

柔軟で特徴ある市民事業を起こす NPO 法人や非営利団体が増加している一方、運営実務能力については悩みを抱えている団体が多い。本センターで行っている NPO ガイダンスや運営相談利用者からも、会計・税務・労務・定款のつくり方などに関する専門講座開催を望む声が多いため、運営基盤づくりの支援策のひとつとして開催している。

開催日　①平成 27 年 2 月 13 日(金)　②2 月 17 日(火)　③2 月 24 日(火)　④3 月 7 日(土)

会　場　総合福祉センター　視聴覚室

内　容　①NPO 法人設立ガイダンス　講師：市民活動センターたちかわスタッフ

②定款のつくり方　講師：森　玲子氏

(東京ボランティア・市民活動センタースタッフ)

③NPO 法人と労務　講師：井嶋栄治氏(社会保険労務士)

④NPO 法人と会計・税務　講師：内藤純氏(公認会計士・税理士)

参加者　①9 名　②4 名　③8 名　④7 名

■市民活動団体のためのマネジメント講座

市民活動団体の活動者のために、広報誌やホームページ等に用いる写真撮影に関する入門講座を実施した。講師は自前のカメラを複数台持ち込みで用意され、デジカメをまだ持っていない人や、自治会やボランティア団体に属する広報担当の方等、幅広い層の参加があった。

開催日　平成 27 年 3 月 10 日　参加者 11 名

会　場　立川市総合福祉センター

講　師　高橋義博氏　(調布市市民活動支援センター)

内　容　初級者向けの撮影講座。写真撮影の歴史から構図の取り方、インタビュー場面の実践。

参加者　11 名

(6)市民活動団体成事業の実施

市民活動団体の立ち上げ資金や事業費について、運営委員による審査会にて、助成の可否を決定した。

○ファーストステップ助成　　7団体　　350,000円

○事業継続支援助成　　14団体　　695,000円

No.	団体名	申請区分	申請内容
1	中高年ミュージカルパフォーマンスぐるーぷ　たっきぃ	市民交流事業	ボランティア講演
2	非営利団体SawakaLab	市民交流事業	0歳からのクラシックコンサート企画・運営事業
3	日本書を選定して読みあう会	市民交流事業	次世代に残したい本について書評を掲載したフリーペーパーの印刷頒布及び次号用インターネット投票
4	NPO法人　モヤイ	社会福祉に関する普及活動	事業所の運営のための設備購入
5	牡鹿半島を支援する会	その他/東日本大震災被災地復興支援	ワカメ収穫作業のボランティア募集
6	ワッカチッタ	市民交流事業	立川・多摩の子育て情報サイトの立上げ運営
7	福島と立川の子どもたちの会	社会福祉に関する普及活動	立川市民の交流と被災地住民のストレスを軽減する活動
8	LFGかるがも愛の家族立川	市民交流事業	第3回東京・多摩・立川アディクションセミナー
9	おはなしたまご	市民交流事業	藤田さんのおはなし会
10	パソコン相談員研究会	市民交流事業	パソコン初心者対象の講座開講
11	NPO法人　こらそん	社会福祉に関する普及活動	学習会「生と性」
12	NPO法人　立川子ども劇場	市民交流事業	乳幼児サークル「しゃぼんだま」
13	三多摩市民後見を考える会	社会福祉に関する普及活動	成年後見制度の啓蒙及び普及活動

14	NPO 法人　バイオマス産業機構	その他/環境・文化造形の普及啓発	「もったいない」環境美化ものづくり
15	チャイルドラインたちかわ	社会福祉に関する普及活動	チャイルドラインたちかわ設立 10 周年事業の開催及び 10 年誌の発行
16	立川市手をつなぐ親の会	社会福祉に関する普及活動	立川市手をつなぐ親の会　ホームページ作成
17	立川市聴覚障害者協会	社会福祉に関する普及活動	聴覚障害者の QOL 向上の促進
18	立川市肢体不自由児・者　父母の会　たつのこ	市民交流事業	親子で楽しむ臨床美術
19	市民のひろば・憲法の会	市民交流事業	第 28 回　憲法集会「歴史認識の問題について」
20	NPO 法人　市民活動サポートセンター・アンティ多摩	市民交流事業	活動をもっともっと元気にしたい交流会の開催
21	市民活動資料・情報センターをつくる会	市民交流事業	市民アーカイブ多摩　開館記念講演と開館準備

■民間助成の周知

民間団体の助成情報を、市民活動センターのホームページや広報紙に掲載するほか、各団体に個別に送付し、市民活動団体やボランティアグループに周知した。また助成に推薦が必要な場合は、地域福祉の推進につながる活動であるかを精査し、推薦を行った。

⑺事務機器等の貸出機材の整備

■機材の貸出し

市民活動支援の為、機材の貸し出しを行った。印刷機、拡大印刷機の利用件数は昨年度とほぼ同数であった。

＜利用実績＞

	印　刷　機		拡大印刷機	
4 月	54 件	23,850 円	11 件	3,680 円
5 月	44 件	20,100 円	9 件	5,960 円
6 月	31 件	11,950 円	4 件	1,800 円
7 月	33 件	15,050 円	5 件	3,900 円
8 月	28 件	12,700 円	11 件	6,410 円
9 月	33 件	13,950 円	16 件	15,070 円
10 月	42 件	19,850 円	20 件	19,950 円
11 月	42 件	7,950 円	11 件	8,840 円

12 月	17 件	7,250 円	6 件	4,100 円
1 月	22 件	9,000 円	5 件	3,350 円
2 月	23 件	10,350 円	7 件	4,640 円
3 月	34 件	13,900 円	5 件	2,500 円
合計	381 件	165,900 円	110 件	80,200 円

・パソコン・図書・車椅子の貸出し

＜利用実績＞

	パソコン	図書		車椅子の貸出し	
4 月	13 件	2 件	2 冊	0 件	0 台
5 月	10 件	3 件	3 冊	3 件	12 台
6 月	9 件	3 件	3 冊	4 件	14 台
7 月	10 件	2 件	2 冊	3 件	15 台
8 月	5 件	2 件	2 冊	0 件	0 台
9 月	10 件	1 件	1 冊	1 件	5 台
10 月	11 件	2 件	3 冊	5 件	15 台
11 月	18 件	2 件	5 冊	3 件	44 台
12 月	13 件	1 件	4 冊	2 件	7 台
1 月	10 件	2 件	4 冊	1 件	10 台
2 月	9 件	4 件	8 冊	3 件	17 台
3 月	9 件	3 件	8 冊	2 件	30 台
合計	127 件	27 件	45 冊	27 件	169 台

・各種備品の貸出

＜利用実績＞

備品名	団体数	貸し出し数
アイマスク	1 件	延べ 25 枚
マイクスタンド	10 件	述べ 20 台
白杖	1 件	延べ 7 本
ＤＶＤプレイヤー	17 件	延べ 17 台
ＰＡ（音響装置）	34 件	延べ 34 台
テント	8 件	延べ 13 張
パネル	5 件	述べ 38 枚

■ボランティアルームの管理運営

ボランティア活動の拠点として、市内 2 ヶ所のボランティアルームの管理運営を行った。

・しばざきボランティアルーム（シルバー人材センター内／立川市柴崎町 1-17-7）

・ふじみボランティアルーム（立川市総合福祉センター2 階／立川市富士見町 2-36-47）

＜利用実績＞

	しばざきボランティアルーム	ふじみボランティアルーム
4 月	10 団体	50 団体
5 月	8 団体	50 団体
6 月	9 団体	61 団体
7 月	9 団体	59 団体
8 月	6 団体	34 団体
9 月	10 団体	50 団体
10 月	13 団体	49 団体
11 月	9 団体	45 団体
12 月	8 団体	40 団体
1 月	4 団体	47 団体
2 月	4 団体	61 団体
3 月	4 団体	55 団体
合計	94 団体	601 団体

(8)ボランティア保険の加入受付

ボランティア活動を行う方が安心して活動できるよう、ボランティア保険および行事保険の相談、加入の受付をした。

＜利用実績＞

ボランティア保険	4,297 名
ボランティア活動等行事用保険	255 件　6,990 名

5. その他

(1)視察研修・取材の受入れ

他地区のボランティアセンターや運営委員会の視察研修やヒアリングを受け入れた。

○厚労省・全社協視察

○高知市社会福祉協議会視察

○牧之原市市議・市職員視察

【地域福祉コーディネーターに関すること】

○地域福祉コーディネーター実施研修説明会

○東久留米市市職員視察

○富山県砺波市市議視察

○安城市職員視察

○大阪府豊中市市職員視察

⑵実習生の受入れ協力

国家資格である社会福祉士の取得を目指す実習生を積極的に受入れ、人材育成に寄与した。

○日本社会事業大学	2名	○東洋大学	1名
○武蔵野大学	1名	○立教大学	2名
○明星大学	1名	○白梅学園大学	1名
○法政大学	1名	○学芸大学	1名
○日本福祉大学	1名	○ルーテル学院大学	1名

合　計　　12名（3～5日間）

Ⅳ. 平成 26 年度の市民活動センター事業を振り返って

人口の減少や少子高齢化の進展、家族や地域の支え合い機能の低下などが続く社会状況下、数年来の日本経済の低迷も回復の兆しを見せ、平成 26（2014）年度は、貧困の連鎖を防止する観点から生活困窮者に対する包括的な相談支援や多様な就労支援、生活支援など、具体的な施策がいよいよスタートしようとしてきており、また平成 27 年度からの介護保険法改正等も前にして、介護予防の取り組みにもボランティアや地域のたすけ合いなど､インフォーマルな社会資源への期待が高まり、様々な相談に応えられる相談体制の整備が求められる年となった。

このような中、立川市社会福祉協議会では、地域福祉市民活動計画「第 3 次立川あいあいプラン 21」に掲げた、①住民が力を発揮し協働できるまち、②互いを尊重しともに生きるまち、③孤立なく支えあえるまち、④誰もが必要なサービスを利用できるまちを実現するため、プランの目標達成のための最終年度として、年度計画を着実に実施し、福祉の６生活圏域のうち、3 地区で地域福祉コーディネーター配置したその効果の実績を示しながら、地域福祉コーディネーターの全地区配置の実現に向けて歩を進めてきた。また、平成 27 年度からの地域福祉市民活動計画第 4 次「立川あいあいプラン 21」策定に向けた策定委員会を、引き続き開催し、地域懇談会による住民の声を反映させるとともに、計画策定を待たずに今から取り組めることは何かを考え検討した 1 年となった。

一方、東日本大震災の発生から 4 年余りが経過する中、立川市や関係機関と協働して立川市内でいまだ避難生活を送られている方々の孤立防止などの取組みも継続し、この震災により尊い生命を失われた皆さまに哀悼の意を表するとともに、一日も早い被災地の復興と被災された皆さまの生活再建をサポートしつつ、震災から得た教訓を風化させてしまうことなく、地域の防災減災の取り組みに活かすことを確認する 1 年でもあった。

1. 平成 26 年度立川市社会福祉協議会　重点推進事項の推進

立川市社会福祉協議会は、平成 26 年度の重点推進事項として、①「第 4 次立川あいあいプラン 21」の策定、②生活困窮者対策の推進、③地域包括ケアの推進、④ＢＣＰ（事業継続計画）策定などによる災害対策の強化、の４点を掲げ事業を進めてきた。

中でも、市民活動センターたちかわは、①「第 4 次立川あいあいプラン 21」の策定における、地域福祉コーディネーターの増配置の推進に努めた。以下、平成 26 年度事業を振りかえりたい。

(1)住民のつながりづくりの促進(地域福祉コーディネーターの配置)

「立川あいあいプラン 21」に位置づけられた地域福祉コーディネーターは、これまでに栄町･若葉町地区に専任で配置して 8 年、上砂町・一番町・西砂町地区に配置して 5 年、錦町･羽衣町に配置して 2 年が経過した。対象を限定せずに地域内の多様な取り組みに関わりながら、地域課題を住民と共に発見し、人と人、活動と活動の結び目をつくりながら「孤立のないまち」「住民が心配ごとの解決に参加できるまち」を目指し、地域福祉活動を進め、地域住民の助け合い、支えあい活動などの推進に努めた。3 名体制となって、より相談件数や連絡・調整回数も増加し、地域福祉コーディネーターの地域における存在認知度はさらに高まってきているといえる。

平成 26 年度は、次年度以降の第 4 次計画策定に向け、市民の幅広い声を軸として、すべての地区へのコーディネーター配置を目指して活動してきた。

(2)震災対策の強化

東日本大震災より 4 年が経過したが、地域においては災害対策への関心は未だ大いに高いと考えられる。しかし震災直後の混乱や教訓が次第に薄まりつつあり、時期を逸することのないよう、市民活動センターは、関係機関・団体と協働して様々な震災対策を行ってきた。

福島県相馬市災害ボランティアセンターの運営支援に市民活動センターの職員を派遣した経験、また宮城県石巻市への職員派遣実績､そして平成 25 年度の大島台風被害による土砂災害での災害ボランティアセンター職員派遣等の実績を生かし、災害ボランティアセンター設置・運営マニュアルの見直し検証に努め、それに基づいて立川市総合防災訓練での、災害ボランティアセンターの啓発や､「次期地域防災計画策定市民会議などへの参画」等を行った。

また、関係団体と協働で、第Ⅲ期となる『災害ボランティアリーダー養成講座』を開講し、災害時の人材養成を図り、避難所との関わりなども考慮しながら、より実践的な訓練とするなど、立川での発災に備える災害対策を進めた。

26 年度はこれらに加えて、立川市社会福祉協議会全体としての事業継続計画（ＢＣＰ計画）を策定のため､特に発災直後～72 時間以内に災害ボランティアセンターを立ち上げるためのシミュレーション訓練成果を基に、内部での意見交換や更なる充実にむけて検討を行った。

2. 平成 26 年度を総括して

上記のほか、運営委員会によるセンター運営や､「協働の推進」「地域づくり」「市民活動支援」のキーワードに基づいた事業を総括したい。

(1)運営委員会によるセンター運営

運営委員会では､平成 25 年 6 月に委員改選から任期 2 年目の委員 20 名での､より具体的な企画・検討が進められた。特に、運営委員会の下に置かれる 3 つの専門部会において、センター運営を進めてきた。

①協働支援センター部会：

社会貢献や地域活動等に参加したい人の為に、一歩踏み出せない人のきっかけや出会いの場つくりを検討した。また、ボランティア活動への参加のきっかけとなる企画と評価に努め、さらに、ボランティア体験した人が次の一歩を踏み出すための「座談会」企画を生み出し実施した。楽市案内人ボランティアなど、活動初体験での感想等を積極的に寄せてこられた人たちを対象に声掛けして開いた座談会の様子をまとめ、次期の夏体験ボランティア等のオリエンテーション等で活かせるよう企画を進め、座談会に 15 名もの参加者を得た。

1)おもしろボランティア大学の企画、評価

2)楽市案内人ボランティアの企画、評価

3)ボランティアとのかけはしとなるブログの検討

4) 初めてのボランティアからその後につながるアンケートの検討

5)初めてから「次」につなげる「ボランティア活動参加者の集まり」「座談会」企画の実施

②地域活動支援センター部会：

部会の方向性として、「今、取り組むべき地域福祉課題を選定し、その啓発や課題解決のための講座を企画、実施する」ことと定めた。また、錦町で開催した地域懇談会で話された課題や、地域福祉コーディネーター新配置地区での取り組み課題等を基に、いま取り組める企画を検討した。その結果、自治会や地域活動への参加者が少ないこと、その他地域活動、ボランティア活動等への男性参加者が少ないこと、団塊の世代の参加のきっかけなどを課題として新たな企画を練るに至った。まずは、武蔵野市や八王子市での先進事例として「男性参加のきっかけイベント」について、実践者を講師として迎えて学ぶことから始め、立川版のオリジナル企画を実施するにあたっては、市民や市民団体が自らの手による企画を生み出せるよう、部会メンバーも加わった実行委員会形式をとって年度末の3月に開催を実現した。

その結果、一般参加来場者が70名以上、啓発の役にあたる市民活動団体等の参加が40団体のべ94名、その他、企画を通して市内で活躍する各種団体の交流の場となり、多くの参加者の賛同を得ることに成功した。産物としてのイベント冊子が当日配布用を含め、500 部作成発行された。団体の活動紹介が掲載された、この「まちパ冊子」は、イベント後も高齢世代のボランティア・市民活動への参加希望の方々の足掛かりとなる参考資料として各種相談現場に用いることが可能なものとなった。

1)地域課題について（第2地区地域福祉コーディネーター参加）
2)「お父さんお帰りなさいパーティーの検討」
3)「待っています。地域の仲間と学びのパーティー」実行委員会、企画・実施

③市民活動支援部会（ボランティアセンター部会）：

部会の方向性を、「市民活動センターとしての理念や捉えるべき社会問題を整理・検討した企画・仕組み作りに取り組む」と定めた。また、部会を中心とした委員により、市民活動センター助成の審査会を形成した。

特に様々な分野における「マイノリティ（少数派）」の方が生きづらさを抱えることなく、地域で暮らしていけるよう、共生社会推進のための啓発イベントとして企画を生み出し、部会メンバーを中心としたサポートにより個人や登録団体と協働し、『ヒューマンライブラリー@立川』というイベントを開催した。ヒューマンライブラリーという聞きなれない名称の周知には特に力を入れることになったが、国内では駒澤大学や明治大学等で先進的な取り組みがある中、社会福祉協議会として「地域」をベースに取り組む例はこれまでにも類を見ないといった企画として実現し成功に至った。

1)市民活動助成金制度について、検討
2)ヒューマンライブラリーについて　企画・実施
3)市民活動センターたちかわ助成金報告、助成審査会
4)団体登録制度について

(2)協働の推進

立川市文化芸術のまちづくり協議会や、市民と行政との協働による運営を進めるための立川市地域学習館運営協議会への参画、総合防災訓練への参加や防災無線訓練の積極的な実施、自治会連合会支部単位での小学校を拠点とした地域防災訓練などへ参画してきた。立川市人権学習事業実行委員会への参画では、昨年度から引き続き、障害者週間の実行委員会と合同での映画上映・トークイベントを実施するなど、新たな形のイベントにつながった。また、同じく地域づくりを推進していく地域包括支援センターとの協働にも力を入れ、福祉の生活6圏域、各地区での小地域ケア会議への参加・協力など、新たな年度の協働の形を視野に入れた活動を実践してきた。

市民活動団体のマネジメント支援の一つとして実施してきた「NPO 法人設立相談」を連携させて地域での創業を活性化するため、25 年度に創業支援事業に関する五者協定を締結したことを機に、行政、地域経済団体、金融機関などが取り組む創業支援事業の周知・啓発を図る連絡会に参画した。

そして、これまで4年にわたり実施してきた通常の学級における学校介助員事業について、教育現場における福祉サービス事業者の協働において、新たに課題整理し、その調整に努めた。その過程においては、宿泊行事等についても穴を空けないスタッフ派遣の検討や、通常学級での特別支援教育（統合教育）の推進を図るため、市教育委員会や学校、事業者間でのカンファレンス実施をしてきた。結果、課題解決を通して教育と福祉の両者協働によるノーマライゼーションの実践を生み出してきている。

また、相談事例の中でも例を挙げれば、文化芸術のまちづくりで関わったことをきっかけに、市内で活動する文化芸術団体が主催する「ダンスフェスティバル」というイベントに、「障害をもつ方々による参加は得られないだろうか」といった相談がセンターに寄せられ、車いす社交ダンスのサークル団体や、知的障害の施設等と交渉し、主催者とお引き合わせするといった協働の実現をしてきている。

(3)地域づくり

地域福祉コーディネーターの活動を重点的に推進して、地域福祉の推進に大きく貢献した。地域づくりにおいて地域福祉コーディネーターの活躍は例に尽きないが、今年度は特に、25 年度に実施した配置コーディネーター3 地区合同による企画を展開し、昨年度に開催した「ちょっと先輩の子育てサポーター養成講座」を受講した方と一緒に、「胎教～おなかの中から始まる子育て」、「マタニティ・フォト」等、子育て中の方向けの企画を催した。受講生が新たな企画を生み出し、またイベント参加者により新たな団体を立ち上げる者が出てくるなど、発展の見られる年となった。

また、地域福祉コーディネーターが携わることにより、地域支えあいサロングループは増加傾向を続けており、「孤立のないまち」「住民が心配ごとの解決に参加できるまち」を目指して、さらに地域福祉活動を進めることができたといえる。

(4)市民活動支援

「市民活動支援」については、地域福祉コーディネーターとセンター職員が連携してボランティア活動やNPO活動など、多様な相談に対する的確な対応を行ったほか、助成事業、ブログなどメディアを活用した情報の受発信、OA機器や「コミュニティ備品」の貸し出しなどを行ってきた。

情報発信の強化として開始した、市民活動センター★たちかわ通信「学校便」を用い、市内小中学校に通う、全児童・生徒に継続して配布した。地域との関わりが深く、将来の地域の担い手と期待される小中学生やその親世代に、福祉教育の視点からのイベント記事や、社会福祉協議会の取組みを伝えることを目的として、年度で3回発行した。また、センター通信は市内の一部自治会には回覧を依頼し、広報の強化が図られてきている。

Ⅴ. 平成 27 年度に向けて

平成 26 年度は、平成 27 年度からの「第 4 次立川あいあいプラン 21」策定に向けて、次の活動を重点的に取組んでいく。

○地域福祉コーディネーターによる住民福祉活動のさらなる推進

これまで配置されてきた第 2 地区（錦町、羽衣町）、第 4 地区（栄町・若葉町）、そして第 6 地区（上砂町・一番町・西砂町）の地域福祉コーディネーターと、今後、増配置されていく各地区担当者による住民活動の推進、そして市民活動センターとの連携を深め、地域における「居場所づくり」や、災害時のご近所同士による助け合いのしくみづくりなど、様々なテーマにおける住民の生活課題に取り組んでいきたい。

○地域住民の孤立の防止

住民の誰もが孤立しない生活を送れるように、地域の「縁側」や「井戸端」といったたまり場、交流の場としての「支えあいサロン」活動をさらに推進していく。また、徘徊高齢者などの認知症対応や介護予防への取り組みといったニーズにも対応した住民相互の助け合い活動などの支援を通し、誰も孤立することのないまちづくりに取り組んでいきたい。

○防災・減災対策の強化

関係団体と協働による、さらに充実した災害ボランティアリーダー養成講座の開催、事業継続計画（ＢＣＰ）と連動した「災害ボランティアセンター」立ち上げの実践的訓練の実施、災害時の関係機関との連携を深めるための災害対策ネットワーク会議の開催など、発災時の備えを強化するとともに、様々なジャンル・分野における協働を視野に入れ、これらの対策を通じて、互いに日頃から顔の見える関係づくりを実現していきたい。

○各種委員会・協議会などへ参画しての新たなネットワークづくり

センターへの期待値の高まりと共に、各種委員会や協議会などの参画依頼は増えている。センター及び地域福祉コーディネーターによるネットワークづくりの機会として積極的に参画していく。

・地域学習館運営協議会、立川市子ども支援ネットワーク、高齢者虐待防止ネットワーク、立川市人権学習事業実行委員会、立川市地域公共交通会議、地域ケア会議など

以上、重点項目を掲げたが、地域福祉コーディネーターにおける地縁を大切にした相談対応との連動、センターにおけるテーマ縁を軸とした相談機能とを十分に活かし連携させ、センターでは「運営委員会によるセンター運営」、「協働の推進」、「市民活動支援」の３つのキーワードに基づいた事業を着実に進めていきたい。

Ⅵ. 市民活動センターたちかわ平成 26 年度収支決算(概略)

（単位円）

科　　目	予　算(A)	決　算(B)	差　異(A-B)	備考
会　費　収　入	2,100,000	1,787,000	313,100	
寄　付　金　収　入	3,600,000	5,000,000	1,400,000	
経常経費補助金収入	21,910,000	20,845,000	1,065,000	
受　託　金　収　入	13,685,000	13,684,600	400	
事　業　収　入	478,000	439,390	38,610	
共同募金配分金収入	1,220,000	1,422,525	△202.525	
雑　収　入	978,000	1,207,717	△229,717	
経理区分間繰入金収入	895,000	1,145,000	△250,000	
経常活動資金収入計	**44,866,000**	**45,531,232**	**△665,232**	(1)
人　件　費　支　出	36,411,000	36,983,400	△572,400	
事　務　費　支　出	1,828,000	1,413,055	414,945	
事　業　費　支　出	6,860,000	5,776,859	1,083,141	
共同募金配分金支出	1,220,000	1,422,525	△202,525	
助　成　金　支　出	2,090,000	1,635,000	455,000	
経常活動資金支出	**48,409,000**	**47,230,839**	**1,178,161**	(2)
経常活動資金収支差額	**▲3,543,000**	**▲1,699,607**	**△1,843,393**	(3) =(1)-(2)
当期資金収支差額	**▲5,536,000**	**▲3,691,877**	**△1,844,123**	(4)=(3)+財務活動収支差額
前期末支払資金残高	5,536,000	7,652,061	△2,116,061	(5)前年度繰越金
当期末支払資金残高	**0**	**3,960,184**	**△3,960,184**	(6) =(4)+(5) 翌年度繰越金

1．『差異』について：「収入」、「収支差額」、「資金残高」における△（マイナス）は予算額より決算額の方が金額が上回ったことを表している。

2．収入について：

＊事業収入、NPO ガイダンス、貸出し機材利用料等。雑収入、夏！体験ボランティアの参加費、実習生の受入謝礼等。

3．支出について：

＊人件費支出、正職員 5 名、事務職員 3 名分。＊事務費支出、運営委員旅費、市民活動センターたちかわ通信の郵送代等
＊事業費支出、NPO 実務講座講師謝礼や機材リース料等 ＊共同募金配分金支出、市民活動センターたちかわ通信作成費等
＊助成金支出、市民活動センターたちかわ助成事業、支えあいサロン助成金等

３章　資料

Ⅰ．平成 26 年度登録団体　（掲載 129 団体）

各団体の詳細は、市民活動センターたちかわのホームページをご覧ください。

URL：http://www.tachikawa-shakyo.jp/skct/

※大きく種類別のグループごとで表にし、表中では登録順に掲載。

○障害のある人や高齢者、医療に関するグループ （39 団体）

団体名	活動内容
アミーゴス	知的障害児・者のマラソングループ
「今を生きる！」難病の会立川	難病患者についての社会啓発を行うグループ
特定非営利活動法人 いもっこの会	障害のある方が働く場
いろりん	障がいのある方の就労支援
片麻痺ネットワーク	パソコン教室の実施
花音	障害当事者によるリサイクルショップ経営
聞き書きボランティア・多摩	高齢者の話を聞き、記録し小冊子にして贈る活動
「クローバーの会」	聴覚障害のある方の理解と手話技術の向上
特定非営利活動法人 ケア・センターやわらぎ	高齢者・障害者への介護保険サービスや自立支援サービス事業等
国立病院機構　災害医療センター ボランティアの会	外来患者の受付・案内サポート
特定非営利活動法人　こぶしの会	知的障害のある方が働く場
特定非営利活動法人　こらそん	障害のある方と障害のある子ども対象の余暇支援活動
在宅ホスピスケア・ ボランティアさくら	ホスピスケアを受けている患者やその家族のサポート
三多摩市民後見を考える会	成年後見制度の学習と啓蒙・普及活動
特定非営利活動法人 自立生活センター・立川	障害のある方が自分らしく生活するためのピア支援活動
社会福祉法人 すみれの会　柏の葉	障害のある方が働く場
ダウン症児の家族の会 「たっちっちの会」	ダウン症児の家族同士による情報交換や悩み相談
特定非営利活動法人 たすけあいワーカーズ　パステル	家事援助・介護・子育て支援や地域活動の実施
立川市視覚障害者福祉協会	視覚障害のある方自身による社会参加推進活動
立川市肢体不自由児・者 父母の会　たつのこ	肢体不自由児とその親のための交流活動
立川失語症さくら会	脳卒中や交通事故の後遺症者の回復支援活動

立川手話こぶしの会	ろう者との交流や手話技術の向上、ろう者の問題を共に考える
立川市手をつなぐ親の会	市内在住の知的障害児・者の福祉増進と援助活動
立川市朗読サークル「こえ」	視覚障害のある方のために録音テープや CD を製作
社会福祉法人東京都同胞援護会 立川福祉作業所	知的障害のある方が働く場
特定非営利活動法人 立川マック	依存症回復のためのプログラム活動
特定非営利活動法人たんとの会 立川けやき福祉作業所	知的障害のある方が働く場
特定非営利活動法人　たんぽぽ	障害のある方が働く軽食・喫茶店
中途失聴・難聴者 「つばさの会」立川	高齢者や聴覚障害のある方同士の交流の場
特定非営利活動法人　テイクオフ	知的障害のある方の余暇活動の場
東京立川断酒新生会	仲間と共に酒害からの回復を目指すグループ
ボランティアグループ“木苺”	柏地域サービスセンター(高齢者デイ)でのボランティア活動
遊木会	工芸品を制作し、障害がある方の自立を促すサポート
ユニベールボランティア東京	高齢者による高齢者のための話し相手活動
ラッキークローバー	知的障害児を持つ家族として余暇活動や勉強会を開催
特定非営利活動法人 介護派遣事業　みんなの広場	障害がある方の支援活動を行っている
立川点字サークル	視覚障害のある方のための点訳活動
特定非営利活動法人　トモニ	主に精神障害者の方の働く場の提供や就労を支援
障害児教育支援ネット	障害児への支援者の人材育成

〇こどもや子育てに関するグループ （26 団体）

団体名	活動内容
With ママ	東日本大震災の子育て支援のためのフリーマーケット
エル・ソレイユ 「やさしい時間プロジェクト」	「優しい時間」シリーズの企画展開
おはなしたまご	読み聞かせのグループ
学校ボランティアサークル 学ボラの会	富士見町を中心とした学校支援ボランティア
特定非営利活動法人 教育支援協会【多摩っ子クラブ】	小学生を対象としたアフタースクールの運営
ぐる～ぷあゆみ	障害児・者のための布絵本の作成活動
ぐる～ぷ遊楽子	子ども向けのお話会の開催や布絵本作成

子育て交流ひろば 立川おもちゃ図書館ぱれっと	障害のある子もない子も利用できるおもちゃ図書館、交流ひろば
子育て支援ボランティア ミニトマの木	子育て支援、見守り保育ボランティア
子どもの未来を考える会	子ども達への寺子屋活動
非営利団体「Sawaka Lab」	育児を抱え込まず、周りのママや地域と共に育児をする環境作り
市民型ソーシャルワーカー ほっとほっとたちかわ	傾聴を中心にした子どもと家庭のための訪問支援活動
特定非営利活動法人 市民共同学習プロジェクト 子どもひろば	子どもが自分を守る力をつけるための出前講座や不登校児支援
すくすくフォローグループ	小さく生まれた子と親への支援活動
スマイル	若葉町での親子グループ活動
立川マザーズ	ひとり親家庭の母子・父子等の交流親睦活動
たまがわ・みらいパーク 企画運営委員会	子どもを中心とした遊び場・学び場の運営
特定非営利活動法人 東京賢治の学校	シュタイナー教育をベースにした自主学校
和みアカデミー	幼児から高齢者を対象に自由な学びの場を提供
社会福祉法人　西立川児童会館	18 歳までの子どもを対象にした自由な遊び場活動
はぐはぐ	子育て中の親が語り合い、子どもたちが安心して遊べる居場所活動
パドマ	子ども連れで参加可能なヨガサークル
福島と立川の子どもたちの会	福島の子どもたちを対象に被災地支援を行うグループ
ボーイスカウト立川第 7 団	子ども達の健全な成長のために指導者のもとにスカウト活動
夢たち応援団	「夢たち　子ども 21 プラン」の推進、バックアップ
ワッカチッタ	0 歳～未就学児の親子を対象に孤立化防止や社会参加を促す活動

○環境に関するグループ （9 団体）

団体名	活動内容
特定非営利活動法人 グリーンサンクチュアリ悠	樹林の保全活動
特定非営利活動法人 集住グリーンネットワーク	緑豊かなまちづくりのための環境教育や雑木林保全活動等
小水力発電交流会・三多摩	小水力発電の啓発活動
砂川・鳴く虫　愛好会	「鳴く虫」など昆虫の生息区域を確保し保存していく活動。
たちかわエコパートナー	清掃活動や環境学習講座の開催
立川かんきょう市民の会	親子の自然体験学習や環境イベントの実施

玉川上水の自然保護を考える会	玉川上水の自然保護活動
特定非営利活動法人 バイオマス産業機構	CO2 削減にかかわる環境整備事業・社会教育・人材育成
特定非営利活動法人 武蔵野の里作りクラブ	昭和記念公園内で武蔵野の農村風景再現と体験活動

○文化・スポーツに関するグループ （24 団体）

団体名	活動内容
歌扇会	福祉施設等で歌や踊りのプログラム提供
えむず柴崎	アルファ波音楽に合わせ、バンドを使ってのエクササイズ
エムズはっぴぃ	アルファ波音楽に合わせ、バンドを使ってのエクササイズ
エムズ若葉	アルファ波音楽に合わせ、バンドを使ってのエクササイズ
特定非営利活動法人 円十字協力	氣功教室を通じて、アジアの学生を支援
キネマたちかわ	優れた映画の自主上映サークル
シャンティ	女性の身体を考えたヨガサークル
キューティー・コア	誰もが参加できるエクササイズ活動
そば打ち友の会	そば打ち技術の習得と福祉施設などでのそば打ち体験
立川親と子のよい映画をみる会	良質な映画の定例上映会
立川市テニス向上委員会	テニスのマナーや技術の無料レッスン提供
立川市ラジオ体操協会	ラジオ体操を通じた健康で明るい地域社会づくり
多摩 fun アート	重度障害者の臨床美術に関する創造活動
多摩ミュージック 21	子ども、障害者、高齢者を対象に良質で安価なコンサートを開催
中高年ミュージカルパフォーマンスぐるーぷ　一季立川	ミニミュージカルとパフォーマンスでボランティア公演を中心に活動
虹の音楽隊	高齢者や児童施設、地域イベントでの演奏活動
日本書を選定して読みあう会	日本書の価値観を読書会を通して広める活動
八舞て会	高齢者施設や地域イベントで日本舞踊、民謡踊りを広める活動
ハワイアングループ	高齢者施設や地域イベントでハワイ文化を広める活動
プルメリア・フラグループ	高齢者施設や地域イベントでハワイ文化を広める活動
文化・芸術いきいきネットワーク （通称 CAN）	高齢者施設へのアクティビティの提供と支援
みんなの展示場 中村洋久絵画館	絵画や手作り作品の無料展示、観覧
らくらくヨガ	ヨガ教室

和太鼓　趣	地域のイベントで和太鼓の演奏、交流

○多文化共生に関するグループ （4 団体）

団体名	活動内容
立川国際友好協会	在住・在勤外国人のための日本語教室
特定非営利活動法人 たちかわ多文化共生センター	外国人のための相談受付や多文化共生イベントの実施
特定非営利活動法人 日本ネパール友好協会	日本在住ネパール人の生活支援や就労支援
国際教育文化交流 ビエンベニード会	スペイン語教室や地域交流イベントの実施

○地域づくり・まちづくりに関するグループ （23 団体）

団体名	活動内容
sSLc　NPO 福祉団体セフティーライフ	防災、音楽、美術等のボランティアを通して、住みよい社会作りを行う
愛犬パトロール　グループの会	愛犬を伴った防犯活動や地域環境美化活動
牡鹿半島を支援する会	宮城県牡鹿半島を中心に、支援物資の提供や復興支援を行う活動
グッドネイバー　西砂・一番	町内で「良き隣人」として人と人をつなぎ支える活動
ぐるーぷ「たけのこ」	使用済み切手の整理
特定非営利活動法人高齢社会の 食と職を考えるチャンプルーの会	コミュニティレストランや地域の居場所づくり事業
栄町地区 グッドネイバーをすすめる会	町内で「良き隣人」として人と人をつなぎ支える活動
栄町猫対策委員会	地域ネコの保護・管理
特定非営利活動法人 さんきゅうハウス	路上生活者への炊き出し、物資配布等の支援活動
シニアパソコン教室	「ゆっくり、優しく」をモットーに、パソコンの使い方を学びあう教室
柴崎町地区 グッドネイバー推進協議会	町内で「良き隣人」として人と人をつなぎ支える活動
市民のひろば憲法の会	憲法集会や社会問題に関する学習会の開催
立川市アマチュア無線クラブ	無線つくりを通しての市民交流の場
立川市災害ボランティアネット	関係機関と連携した防災、減災活動
たちかわ市民みらい会議	市民による市制参画、条例策定推進、勉強会等を行うグループ
立川精神障害者家会 （立川麦の会）	精神障害児・者の福祉増進と援助活動
多摩生きがいづくり協議会	サラリーマンOBの地域へのソフトランディング支援が目的
にゃんにゃん	地域ネコの保護・管理

フリー談話室さぼう	誰もが利用できる談話室の運営
若葉町の福祉を考える会 グッドネイバー若葉	町内で「良き隣人」として人と人をつなぎ支える活動
若葉町ボランティアグループ	高齢になって外出が少なくなった方たちの仲間づくり
錦法律を知る会	日常生活に関わる法律の普及啓発活動
地域福祉ボランティア	地域福祉の推進及び向上のための活動

○いろいろな相談事業に関するグループ （4 団体）

団体名	活動内容
特定非営利活動法人　市民活動サポートセンター・アンティ多摩	市民活動団体や個人へ向けた情報誌作成や活動支援
(学習とボランティアの会) たちかわパソコン倶楽部	初心者を対象にした無料相談会や福祉施設での講座実施
パソコン相談員研究会	初心者を対象にした相談・講習会の実施
特定非営利活動法人　ライブリー	家庭内の問題についてのカウンセリングや法務相談事業

Ⅱ．平成 26 年度登録サロン （掲載 130 ヵ所：）

町名は主な活動拠点を指す。分類ごと、登録順。

サロン名	活動内容
【高齢者関係】 （99 ヵ所）	
さき織りボランティアグループひめりんご /若葉町	さき織りを中心とした交流
サラおしゃべり会 /若葉町	茶話会や企画の開催
若葉町ボランティアグループ /若葉町	ミニデイサービス
はなみずき /幸町	茶話会
健康麻雀友の会 /若葉町	健康麻雀
松中団地みんなのサロン会 /一番町	話し合い、茶話会
いきいきサロン /栄町	健康体操
福祉あすなろ会 /富士見町	散歩及び切手整理等
さかえサロン /栄町	ヨガ
さゆりの会 /幸町・砂川町	ストレッチ体操
たんぽぽの会 /泉町	太極拳、お茶会
麦 /西砂町	茶話会・手芸、お菓子作り
あら七あらっ八 /高松町	茶話会、おしゃべり
健康体操サークル /高松町	健康体操と学習

生き生き健康体操伸和会グループ /栄町	健康体操、お話
ひまわりの会 /富士見町	書道を通した身体障害者のリハビリとケア
編み物サークル /若葉町	編み物
健康体操スロー会 /高松町	健康体操
すみれの会 /富士見町	健康体操
上砂体操クラブ /上砂町	健康体操
熟年男性料理の会 /幸町	料理
わかば麻雀くらぶ /若葉町	健康麻雀
ＢＢＰ /富士見町	パソコン勉強会
みんなのサロン /富士見町	健康体操、茶話会、食事会
麻雀クラブ花ショーブ /高松町	健康麻雀
創年クラブ /上砂町	体操、脳トレ、茶話会
ヨーガ 60 /錦町	60 代の女性を中心とした初級ヨガ
こんぴら体操クラブ /砂川町	ウォーキング
HOT サロン /高松町	体操、ボランティアによる余興、おしゃべり
桜 /栄町	健康体操
南部健康サロン /栄町	健康体操
いずみ会いきいき体操サークル /泉町	健康体操
楽々太極拳 /一番町	太極拳、茶話会
健康体操クラブ /曙町	健康体操
エステート・暮らしの相談室 /一番町	喫茶、簡単な修理・家事のお手伝いを行う
トリム体操上砂スマイル /一番町	トリム体操
パレス会 /曙町	茶話会、脳トレ体操、手芸
プラザシティ健康体操クラブ /曙町	健康体操
上砂たのし会 /上砂町	踊り、おしゃべり、唄、お茶会
生き生きすみれグループ /若葉町	健康体操
トリム体操さくらクラブ /一番町	健康維持、体力増進のための体操
高松おしゃべりサロン /高松町	茶話会
キラキラサロン /砂川町	茶話会
よつ葉グループ /若葉町	健康体操
すまいるサロン /曙町	食事会
檜山さんちのえんがわ /上砂町	茶話会・交流会
上砂フレンド /上砂町	生き生き体操
杜のつどい /若葉町	体操、茶話会
なかよしサロン /栄町	食事会
らくらくヨガ /若葉町	ヨガ

けやき台ものづくりの会 /若葉町	手芸
けやき台歌とおしゃべりの会 /若葉町	歌、おしゃべり
ふれあい喫茶 /一番町	茶話会、おしゃべり
紬 /曙町	手芸、体操、茶話会
けやき台生き生き体操教室 /若葉町	体操
３丁目の安田さん家 /柏町	おしゃべり
幸ふれあいサロン /幸町	食事会
たんぽぽ /上砂町	体操
支えあいサロン昼食会 /羽衣町	調理実習、食事会
けやき茶屋 /西砂町	茶話会
幸ストレッチ教室 /幸町	ストレッチ体操、リズム体操、筋トレ、茶話会
カフェえのしま /栄町	茶話会
コープタウン一番会 /一番町	体操
サロンこてまり /一番町	茶話会、脳トレ体操、ものづくり、唄
乙女の会 /砂川町	ストレッチ体操、手芸、料理
トリム体操にしすなクラブ /一番町	トリム体操
トリム健康体操コスモス /一番町	健康体操
やすらぎヨガの会 /泉町	ヨガ
立川市いきいき体操Ｃ /若葉町	いきいき体操
新聞を読んで /柴崎町	茶話会
ロコトレ /若葉町	体操
ぴんぴん体操錦同好会 /錦町	体操
りんどうの集い /栄町	健康体操
三四体操会 /錦町	体操
遊亀の会 /幸町	体操
トリム体操フレッシュ /西砂町	トリム体操
ミントの花 /幸町	お茶会
健康ヨガさくらんぼの会	健康ヨガ
ピッコロ /砂川町	健康体操
生甲斐グループ /高松町	健康体操
やすらぎグループ /若葉町	お茶会、カラオケ、ウォーキング
ほのぼの /砂川町	体操、茶話会
それいゆ　/若葉町	健康体操
さつき　/幸町	きり絵
けやき台いきいき体操水曜グループ　/若葉町	いきいき健康体操

せせらぎサロン　/柴崎町	お茶会
新緑クラブ　/若葉町	健康体操、口腔ケア、フラダンス
元気会書道部　/高松町	書道
なかよし会　/幸町	お話会、トランプ、かるた、お手玉
くるみ　/栄町	講和会
リバーサイドヨーガ　/富士見町	ヨガ
立川そよかぜトリム　/西砂町	椅子に座って行うトリム体操
甲呂(かんろ)の会　/栄町	笛の練習、おしゃべり会
スマイルヨガ　/羽衣町	ヨガ
けやき太極拳　/若葉町	太極拳
きずな　/羽衣町	茶話会、昼食づくり、ボランティア
つどい　/羽衣町	ゲーム、体操、食事会
ラビット　/砂川町	体操
イレブン・ピア　/上砂町	もの作り、カラオケ教室

【子育て】**(29ヵ所)**

親子で学ぶサークル『ハーモニー』 /高松町、幸町、西砂町	読み聞かせ、歌、自由遊び、講師を交えた「わらべ歌」講習、遠足等
スキップママ /富士見町	体操・料理・クラフト・子育て講座開催等
パドマ /富士見町	全世代を対象とし、ヨガ、情報交換
テニスサークルマムマム /錦町	茶話会
じゅんじゅん /曙町	アフリカダンス
親ワザ学びの会「ナチュラ」 /砂川町・柴崎町	親業の講習会や自主学習会
ヨガサークル　Namasute /柴崎町	健康づくりのためのヨガ
スマイル･ママ /高松町	親子でできる体験
whoopee /柏町	お茶会、子どもの英会話、誕生会、エクササイズ
寅の子会 /幸町	情報交換、体操など
シャンティ /富士見町	ヨガ、情報交換
まんまるヨガ部 /若葉町	ヨガ、情報交換
パンプキン /幸町	子育てサークル
たちかわまみーくらぶ /富士見町	茶話会
テュットカフェ /富士見町	茶話会、子育て広場、ハンドメイド
レインボー/若葉町	おしゃべり、英会話
らびどらの会/幸町	子育ての情報交換会
ラビッツ/幸町	子育て情報交換、体操
レインボーマム/高松町	茶話会、親子ヨガ

ちびＴＡＴＳＵ/幸町	子育て情報交換
KEYADAN/若葉町	ダンス、ストレッチ
けやきっずくらぶ/若葉町	茶話会、ママビクス
にょろりん/幸町	子育てサークル
へびまる/栄町	茶話会、子育てに関する学習、体操
エスポワール/栄町	子育てサークル、情報交換など
ヨガサークルヨガ/西砂町	ヨガ
もぐもぐ/幸町	懇談会、おしゃべり会
JAJA うま/栄町	茶話会、ベビー体操
スプリングベイビー/錦町	情報交換・子育ての悩み相談

【その他】**(2ヵ所)**

ワークアウトＦｏｒ．Ｍｒｓ．の会/錦町	エアロビ、親睦会
サンクタスもう一つの居場所/緑町	おしゃべり